

川崎町「道の駅」基本構想・基本計画

2021年3月

川崎町

はじめに

「川崎町道の駅基本構想・基本計画」は、「第6次川崎町総合計画」の重点プロジェクトとして位置づけられた取組みとして、地域課題や周辺状況に対応した基本理念及びコンセプトを設定し、導入施設の機能や規模、整備・管理手法などを整理するとともに、住民意向や利用者ニーズに沿った「道の駅」の実現に向けた今後の取組みを整理するものです。

策定にあたっては、住民ニーズを広く収集することを目的として、住民アンケート及び町内の主要関係団体等に対してヒアリングを行い、パブリックコメントを実施しました。また、施設機能や管理運営手法について検討することを目的として、様々な見識を持つ町民や関係団体代表者等13名からなる「川崎町道の駅推進会議」を設置し、検討を行いました。

「道の駅」は、制度発足当初は通過する道路利用者へのサービスが中心でしたが、近年では、農業・観光・福祉・防災など、地域の個性や魅力を活かした様々な取組みがなされており、地域活性化の重要な役割を担っています。町内においては、幹線道路である国道322号バイパスの整備により、朝倉・久留米方面と北九州方面からの利便性が向上し、新たな人の流れが創出されます。さらに「道の駅」は住民に開かれたプラットフォームであるという特長を有しており、様々な世代に対応したコミュニティ機能や、災害時の対応の強化等、地域課題に対応した施策の展開が求められています。

こうした背景から、整備コンセプトを「多世代が楽しく過ごし、町の良さを発信し続ける『道の駅』」と設定しました。道の駅の役割を、「住民の交流を深める場」、「健康づくりへの貢献」、「食を中心とした仕事の創出」ととらえ、地域活力やにぎわいが創出され、住民に愛される「道の駅」を本町に整備するために協議を重ね、このたび基本構想・基本計画を策定しました。

目次

序 業務の目的と内容	3
(1) 業務の目的.....	3
(2) 業務の内容.....	3
1. 計画条件の整理	5
(1) 道の駅整備事業の概要.....	5
(2) 川崎町の現状.....	7
(3) 計画地の概要.....	15
2. 事例調査	17
(1) 全国道の駅の分析.....	17
(2) 県内道の駅の分析.....	19
(3) 近隣道の駅の概要.....	23
3. ニーズ調査	27
(1) 住民要望.....	27
(2) 町内関係団体ヒアリング.....	31
4. 基本理念及びコンセプトの検討	33
(1) 基本的な考え方.....	33
(2) コンセプト.....	34
(3) 整備イメージ.....	35
(4) 周辺道の駅との差別化.....	38
(5) 参考事例.....	39
5. 導入施設規模の検討	41
(1) 駐車場.....	41
(2) トイレ.....	44
(3) 情報発信施設.....	45
(4) レンタサイクルスペース.....	45
(5) シャワーブース.....	45
(6) 多世代交流施設.....	46
(7) レストラン・カフェ.....	46
(8) 物販、軽食コーナー.....	47
(9) パン工房.....	48
(10) 商品開発室.....	48
(11) 防災施設.....	48
(12) 施設規模まとめ.....	49
6. 配置計画	50
(1) 全体配置計画.....	50
(2) 配置イメージ.....	51
7. 整備・管理運営手法の検討	54
(1) 検討の視点.....	54
(2) 道の駅の整備.....	55

(3) 施設整備手法	56
(4) 施設運営手法	59
(5) 管理運営業務の体制	60
(6) 管理運営に関する概算収支	61
8. 本事業に利用可能な補助制度	63
9. 概算事業費・事業スケジュール・今後の課題.....	65
(1) 概算事業費	65
(2) 事業スケジュール	65
(3) 今後の課題.....	66

序 業務の目的と内容

(1) 業務の目的

- ・本業務は、第6次川崎町総合計画の重点プロジェクトに位置付けられている「道の駅」の整備を、地域課題や周辺状況に対応し、住民意向や利用者ニーズに沿った整備を総合的に推進する基本計画等を策定することを目的とする。

(2) 業務の内容

①基本構想の策定

- 1) 計画条件の整理
- 2) 事例調査
- 3) 基本理念及びコンセプトの検討
- 4) 導入機能についての基本方針の検討
- 5) 整備及び管理運営手法の検討
- 6) 川崎町「道の駅」基本構想（案）の策定

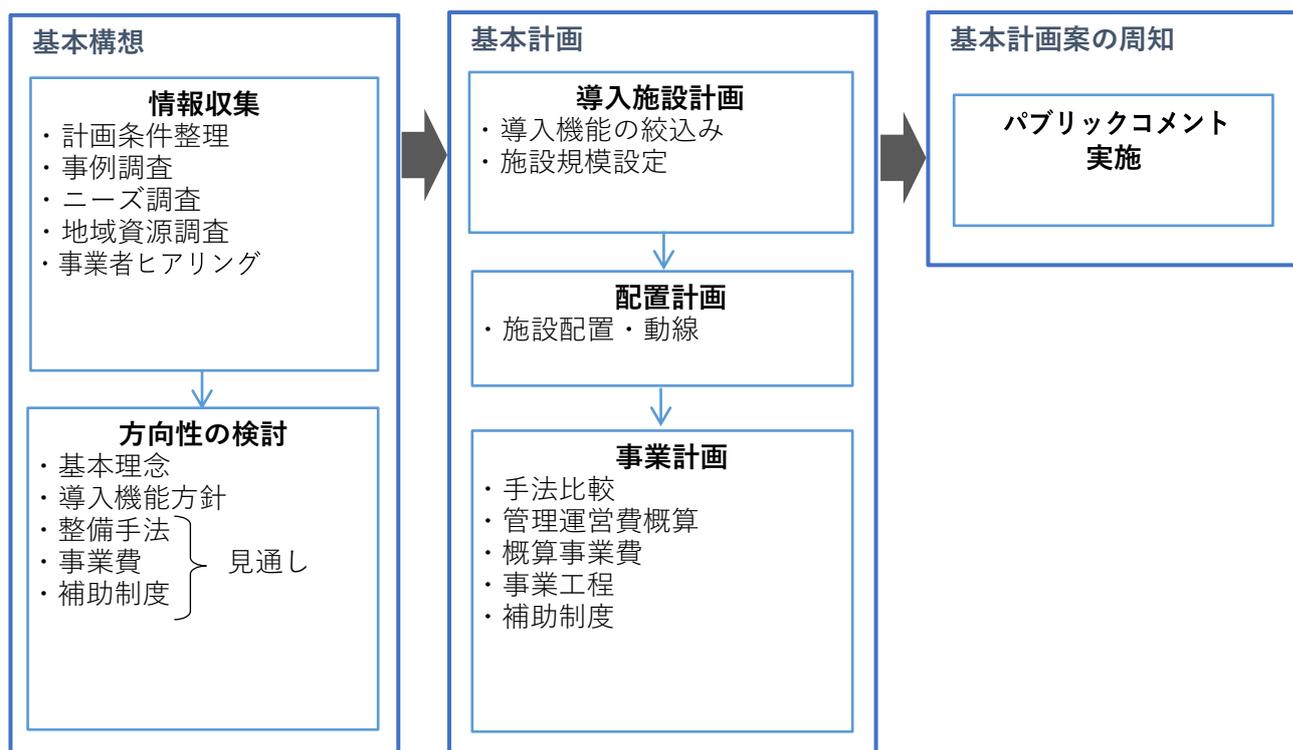
②基本計画の策定

- 1) ニーズ調査
- 2) 地域資源調査
- 3) 導入機能及び施設規模の検討
- 4) 配置計画の検討
- 5) 整備及び管理運営手法の検討
- 6) 概算事業費及び整備事業全体のスケジュール
- 7) 本事業に利用可能な補助制度の整理
- 8) 事業スケジュールと今後の課題検討
- 9) 川崎町「道の駅」基本計画（案）の策定

③共通事項

- 1) 各種会議の開催支援
- 2) パブリックコメントの実施支援
- 3) 概要版の原稿作成
- 4) 基本構想及び基本計画、概要版等の印刷製本

作業フロー



スケジュール

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
基本構想	情報収集		方向性の検討					
基本計画				導入施設計画	配置計画	事業計画	推進会議	パブリックコメント募集対応
								印刷

1. 計画条件の整理

(1) 道の駅整備事業の概要

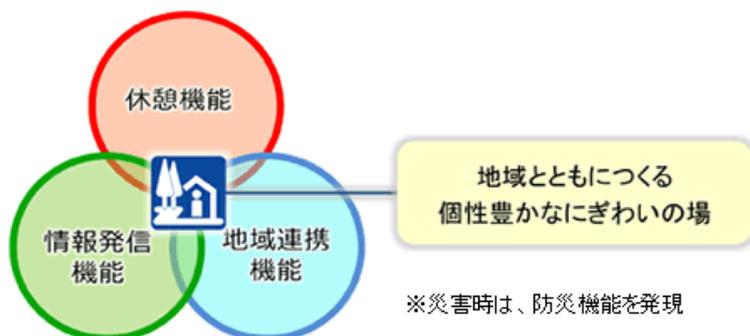
①「道の駅」の目的と機能

○目的

- ・道路利用者への安全で快適な交通環境の提供
- ・地域の振興に寄与

○求められる機能

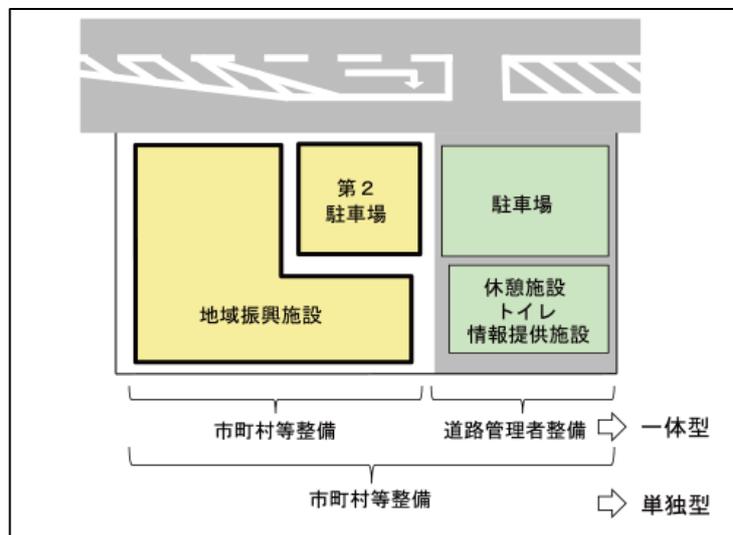
休憩機能	・24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ
情報発信機能	・道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供
地域連携機能	・文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設



出典：国土交通省

②整備主体と整備内容

- ・「道の駅」は、市町村又はそれに代わり得る公的な団体が設置する。登録は、市町村長からの登録申請により、国土交通省が登録する。
- ・整備の方法は、道路管理者と市町村等で整備する「一体型」と市町村等で全て整備を行う「単独型」の2種類がある。平成29年11月現在で全国1,134駅ある道の駅のうち、619駅(55%)が一体型、515駅(45%)が単独型で整備されている。



道の駅の整備主体と整備内容 出典：国土交通省

③登録要件

項目	小項目	登録要件
施設	休憩機能	○駐車場 ・利用者が24時間無料で利用できる十分な容量を持った駐車場 ○トイレ ・利用者が24時間無料で利用できる清潔なトイレ ・障がい者用も設置
	情報発信機能	・道路及び地域に関する情報を提供 (道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報等)
	地域連携機能	・文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設
設置者		市町村又は市町村に代わり得る公的な団体
その他配慮事項		施設及び施設間を結ぶ主要経路のバリアフリー化

道の駅の登録要件

④道の駅第3ステージ

「道の駅」は、制度発足から『通過する道路利用者のサービス提供の場』として、全国各地に広がりました。

各「道の駅」における自由な発想と地元の熱意の下で、観光や防災など更なる地方創生に向けた取り組みを、官民の力を合わせて加速します。

更に、「道の駅」同士や民間企業、道路関係団体等との繋がりを面的に広げることによって、元気に稼ぐ地域経営の拠点として力を高めるとともに、新たな魅力を持つ地域づくりに貢献します。

「2025年」に目指す3つの姿

1. 「道の駅」を世界ブランドへ

<主な取り組み>

海外プロモーションの強化

外国人観光案内所の認定取得やキャッシュレスの導入

風景街道等と連携した観光周遊ルートの設定

観光 MaaS (アプリで交通と観光施設を案内)



2. 新「防災道の駅」が全国の安心拠点に

<主な取り組み>

広域的な防災拠点となる「防災道の駅」認定制度の導入と重点支援

地域防災力の強化のためのBCP策定や防災訓練等の実施



3. あらゆる世代が活躍する舞台となる地域センターに

<主な取り組み>

子育て応援施設の併設

自動運転サービスのターミナル

大学等との連携によるインターンシップや実習 (商品開発等)



出典：国土交通省

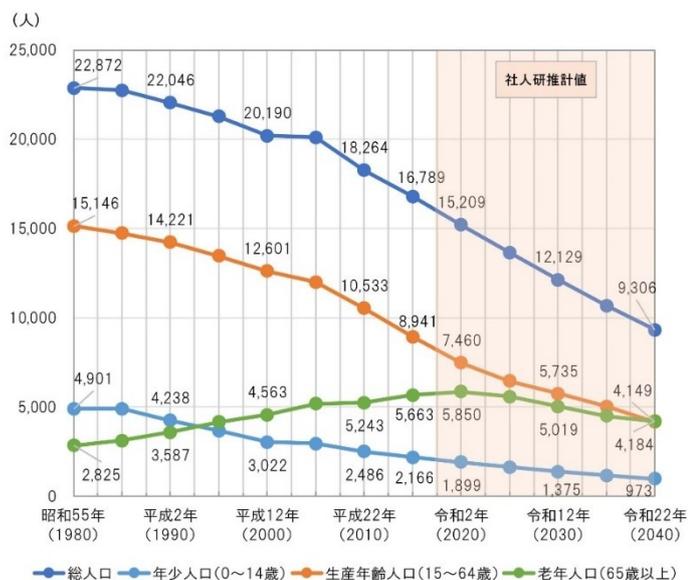
(2) 川崎町の現状

①沿革・歴史

- ・川崎町は明治以降、大手資本による炭鉱の操業により、急速に人口が増加した。しかし、昭和30年代に入り、炭鉱が次々と閉山したことにより、人口が急激に減少した。
- ・このような情勢の中で、住宅団地の造成による定住人口の確保、工業団地の造成、企業誘致による雇用の拡大、社会教育施設の整備による教育、文化の振興などが行われてきた。

②人口・産業

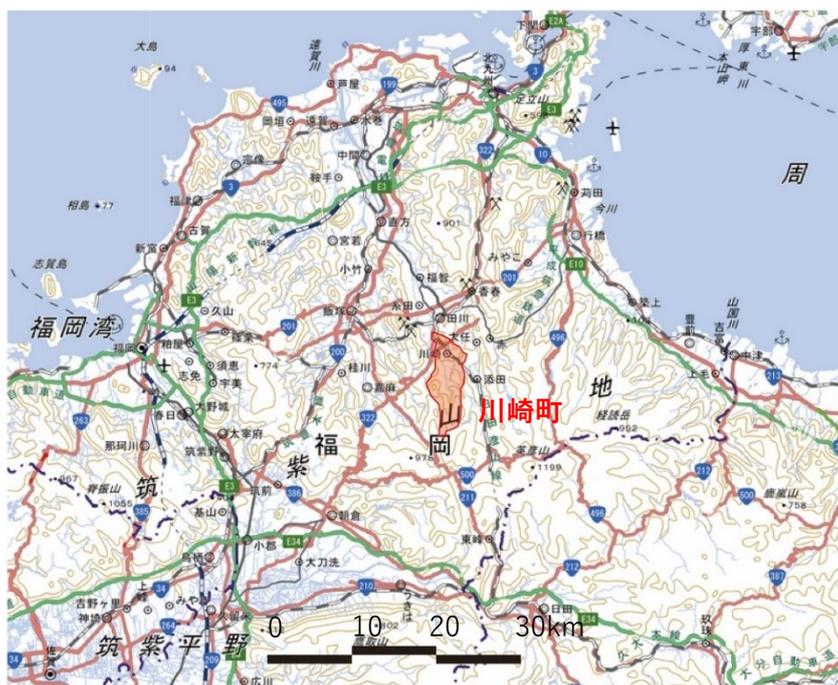
- ・人口は平成27(2015)年には、16,789人となり、35年間で25%以上減少している。
- ・高齢化や人口減少が進行し、地域活力の低下が課題となっている。



年齢3区別人口の推移と将来推計 出典：第6次川崎町総合計画

③交通

- ・広域道路網としては、北九州～朝倉・久留米方面を結ぶ国道322号が町内を、福岡～行橋方面を結ぶ国道201号が付近を通っている。



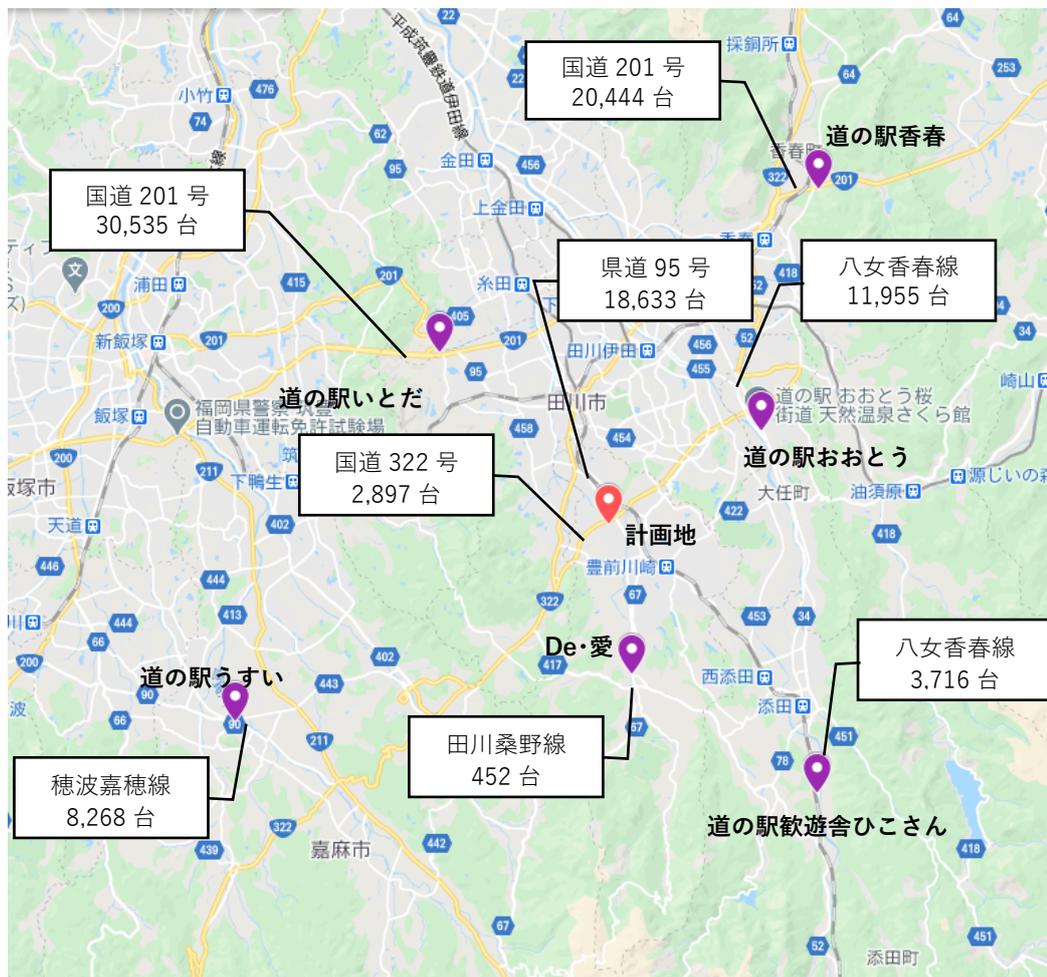
広域交通網

- ・国道 322 号は、令和元年（2019 年）に八丁峠道路が開通し、朝倉・久留米方面からの利便性が高まった。令和 2 年（2020 年）には香春大任バイパスも整備され、北九州方面からの利便性が高まっている。



八丁峠道路 出典：国土交通省

- ・計画地前面の国道 322 号の 24 時間交通量は約 2,900 台と比較的少ない。これに直交する県道 95 号は約 15,000 台の交通量がある。
- ・国道 322 号の将来交通量は令和 12 年（2030 年）で 8,000 台と想定されている。



計画地周辺の道路網と 24 時間交通量

資料：H27 年度道路交通量調査

④自然・文化・観光・地域資源

- ・川崎町は、盆地特有の寒暖差を活かしたりんご、梨、ぶどうなどの果物、野菜の栽培、稲作が盛んな樹園地、田園風景広がる自然豊かな町である。
- ・文化財として戸山原古墳、光蓮寺の菩提樹、正八幡神社の杖楽や、歴史遺産として炭鉱山跡地など、文化財や歴史遺産が豊富である。



かわさきマップ

出典：か・わ・さ・き・出・会・い TRIP

●自然資源



安宅の滝



中元寺川の甌穴群



観光リンゴ園



彼岸花群生地



木城のフジノキ



黒木のケンポナシ

●文化・観光資源



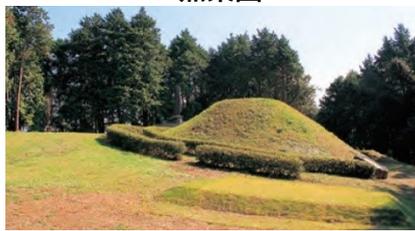
魚楽園



正八幡神社の杖楽



光蓮寺輪蔵附経蔵



戸山原古墳



淡島神社



農産物直売所「De・愛」

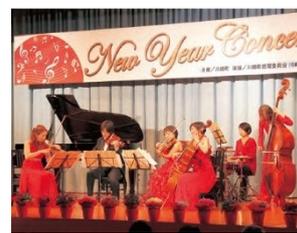
●イベント



かわさきパン博



まつり川崎



ニューイヤーコンサート

●特産品



黒酢



亀蜜



ハチミツ

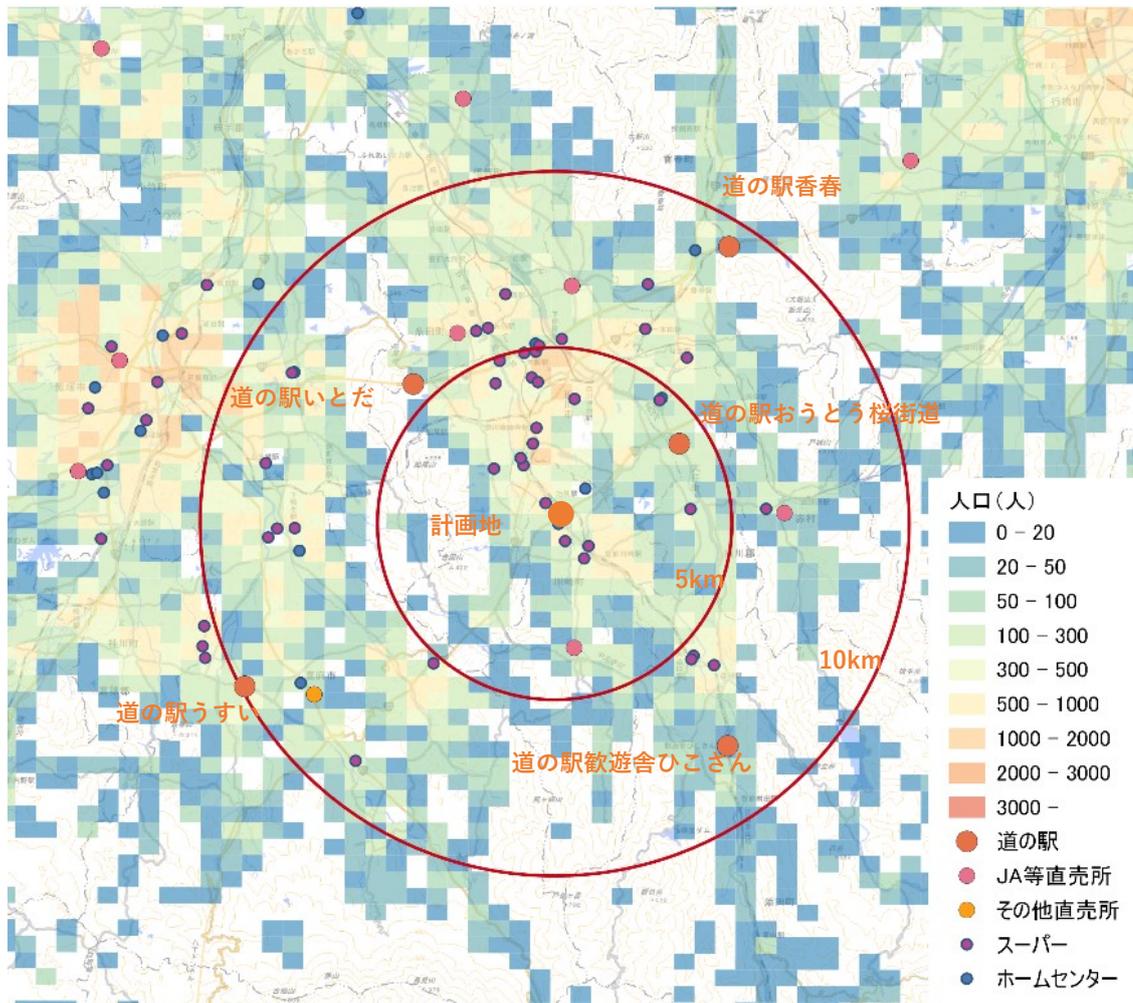


アップルクーヘン

⑤商業環境

・下図は、計画地周辺の人口分布図の上に、類似施設をプロットしたものである。この図から以下の事項が読み取れる。

- 1)10km 圏内に立地する5つの道の駅に囲まれ、直売所も多い。このため、他の道の駅や直売所との差別化が不可欠である。
- 2)田川市と川崎町を結ぶ帯状に人口が集中し、店舗も同様に帯状に分布している。この地域には交通量の多い県道95号が走っていることから、店舗が立地しやすいものと考えられる。
- 3)計画地はこの帯状の区域にあることから、店舗は比較的立地しやすいと考えられる。

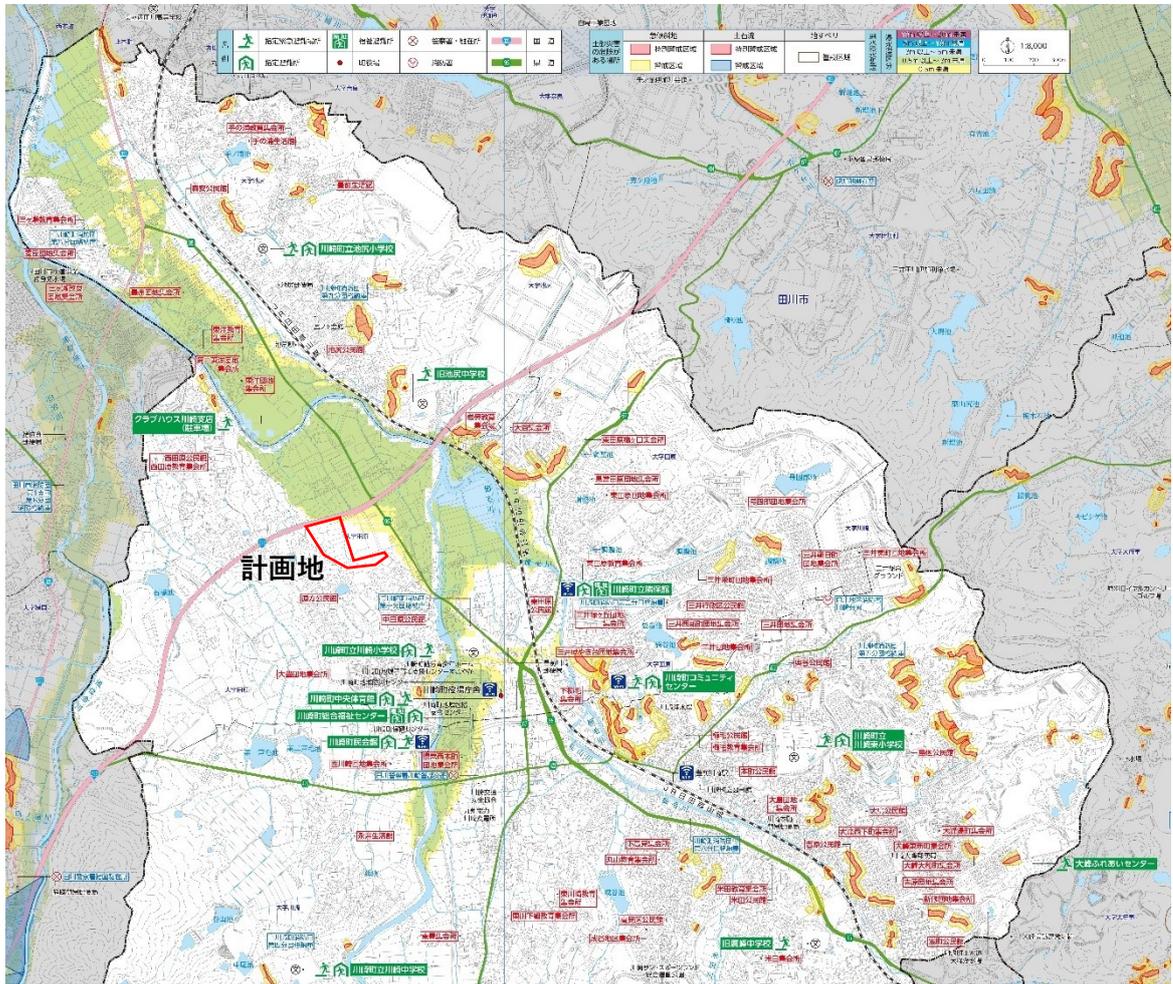


計画地周辺の商業環境

資料：500m メッシュ別将来推計人口データ（H30 国政局推計）

⑥防災

- ・計画地は洪水等による浸水、土砂災害等は想定されていない。
- ・指定避難所、指定緊急避難場所は町役場周辺に多く、計画地周辺は少ない。



防災マップ

資料：川崎町防災マップ

⑦第6次川崎町総合計画（令和2年）

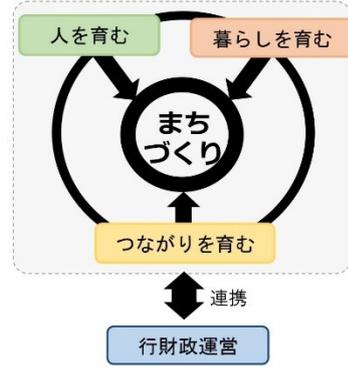
●まちの将来像



ReBorn! 川崎町

人を育み、町を創る。10年先も住み続けたい町へ

●まちづくりの基本目標



●重点プロジェクト

将来像	基本目標	重点プロジェクト
ReBorn! 川崎町 人を育み、町を創る。 10年先も住み続けたい町へ	人を育む	<p>健やかに人を育む 子どもたちは町の宝です。子どもたちが健やかにのびのびと学習できる環境を整えます。また、子どもたちのみならず、町民の誰もが健康で幸せに暮らし続けることができる町をめざします</p>
		<p>重点プロジェクト① 学力向上プロジェクト 目標のある生涯を送るために必要な、自らの力で課題を解決し実行できる児童・生徒が育つ町をめざします。現在実施している土曜無料塾などの事業を拡充しつつ、民間のノウハウを活用するなど新たな学力向上プログラムを検討し、確かな学力を身につけた児童・生徒を育てます</p> <p>■KPI ■※1 全国学力調査の平均正答率県平均に向上</p>
	暮らしを育む	<p>重点プロジェクト② スマートウェルネスシティプロジェクト 町民誰もが、生涯にわたって医療に頼らずに心も体も健康で幸せに過ごせる町をめざします。そのために、運動する場所や機会を整備し、歩きたくなる環境づくりを進め、住んでも、訪れても「健幸」になれる健幸都市川崎をめざします</p> <p>■KPI ■健康寿命の延伸</p>
		<p>川崎町らしい仕事を育む 町の資源を活かした産品や取組みを磨き上げ、今後はより付加価値を高め、「稼ぐ」ことのできる新しい本町の基幹産業をつくることをめざします。また、就業環境の充実や改善に向けた取組みを強化し、雇用を促進します</p>
	つながりを育む	<p>重点プロジェクト③ 「稼ぐ」農業プロジェクト 農作物のブランド化など、本町の自然環境や美味しい農産物などを活かした農家の収益拡大の取組みを、継続性のある「稼ぐことのできる産業」に育てていくため、事業継承のほか、事業組織の立ち上げや新規就農者への支援を推進します</p> <p>■KPI ■新規就農者数 5 人 ※2</p>
		<p>重点プロジェクト④ 地域拠点プロジェクト 子どもたちの遊ぶ場所や学習の場、子育て支援の場など、地域生活の拠点となり、誰もが使いやすい場所の整備検討を行います。また、交通・物流の拠点となる国道 322 号バイパス沿いに道の駅など交流拠点機能を有した施設を整備し、地域内外の人々が集う賑わいのある空間を創出し、活力ある地域づくりを推進します</p> <p>■KPI ■地域拠点施設整備の有無</p>
		<p>町内外の人のつながりを育む 町民や事業者間にある地域の絆をもとに、地域内で顔が見えるコミュニティづくりを進めます。それらの活動や取組みを積極的に町内に PR するなど、環境づくりに重点的な支援を行い、地域への愛着の心を育て、「住み続けたいまち」をめざします。加えて、さまざまな形で本町に関係をもつ人口を増やし、人の流れを促進していきます</p>
		<p>重点プロジェクト⑤ UIJターン等移住推進プロジェクト 「帰ってきたいまちづくりに加え、国籍を問わず「住みたい」「住んでよかった」と思える町をめざし、移住関連情報の提供や相談支援の強化を図るとともに、居住負担の軽減策の検討など、関係人口等の移住推進に取組みます</p> <p>■KPI ■5 年間の転出超過数の抑制</p>
		<p>重点プロジェクト⑥ スポーツ交流人口強化プロジェクト スポーツ合宿の受入れ検討を通じて、人の流れを生みだし、地域振興につなげます。スポーツ合宿時に、本町らしいおもてなしを用意するなど「来てよかった」と感じられる受入れ体制を整えます</p> <p>■KPI ■町内体育施設利用者数 100,000 人</p>

●道の駅に関連する施策

施策	施策の展開	内容
保健・医療等の充実	健康増進の推進	・ 町民誰もが生涯にわたって、医療に頼らずに心も体も健康で幸せに過ごせる町（ スマートウェルネスシティ：健幸都市 ）をめざし、運動する場所や機会を整備し、歩きたくなる環境づくりに取り組む
農業の振興	農産物のブランド化	・ 棚田米やレンゲ米生産等により、 農産物のブランド化 を進める ・ 付加価値の高い 6次化商品の開発 を進め、町の魅力向上に努める
商工業の振興	観光による商業振興	・ 町内の観光交流人口の増大や観光消費額の増大を目的に毎年開催する かわさきパン博 を継続するとともに、 特産品等の周知活動 の実施や観光りんご園事業の拡大を進める
	近隣市町村との魅力ある観光地域の形成	・ 近隣市町村と連携して町内の 観光地や観光施設の魅力を発信 し、福岡、北九州都市圏からの観光客誘致を進める
観光の振興	観光宣伝の強化	・ 本町ホームページでの観光地等の情報発信を充実させるとともに、インバウンド需要に対応した観光情報の多言語化に努める
	観光基盤整備	・ 川崎町農産物直売所「De・愛」と隣接する安宅川周辺を、観光施設として整備 ・ 「JR池尻駅周辺」を総合的・計画的に整備 ・ 交流・物流の拠点となる国道322号バイパス沿いに、 <u>町外からの交流人口の増加、町全体の経済・産業の活性化</u> を図る主要な施設として、独自性を持ち、 <u>町の顔</u> となるような 「道の駅」の整備 を進めるとともに魅力的なイベントの創出をあわせて進め、 <u>町の賑わい</u> を確保
拠点や施設の整備	町内拠点整備の推進	・ 「JR豊前川崎駅」から川崎町農産物直売所「De・愛」および「雪舟ロード」を観光とウォーキングの拠点とし、公園用地を利用した健康施設や道路の整備等を行う ・ 町外からの交流人口の増加、町全体の経済・産業の活性化を図る主要な施設として、独自性を持ち、町の顔となるような 「道の駅」の整備 を進める

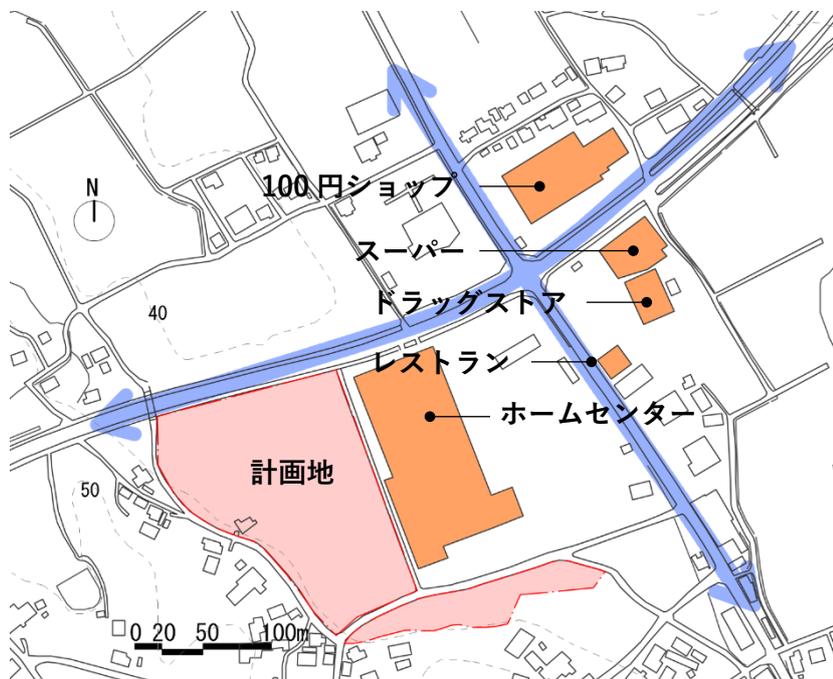
(3) 計画地の概要

①位置・面積

- ・計画地は国道 322 号に面している。
- ・国道 322 号と県道 95 号が交差する田原交差点に近い。
- ・大規模なホームセンターに隣接している。またスーパー、100 円ショップ、ドラッグストア、レストランなども交差点付近に集積している。
- ・面積は約 2.4ha である。



位置図



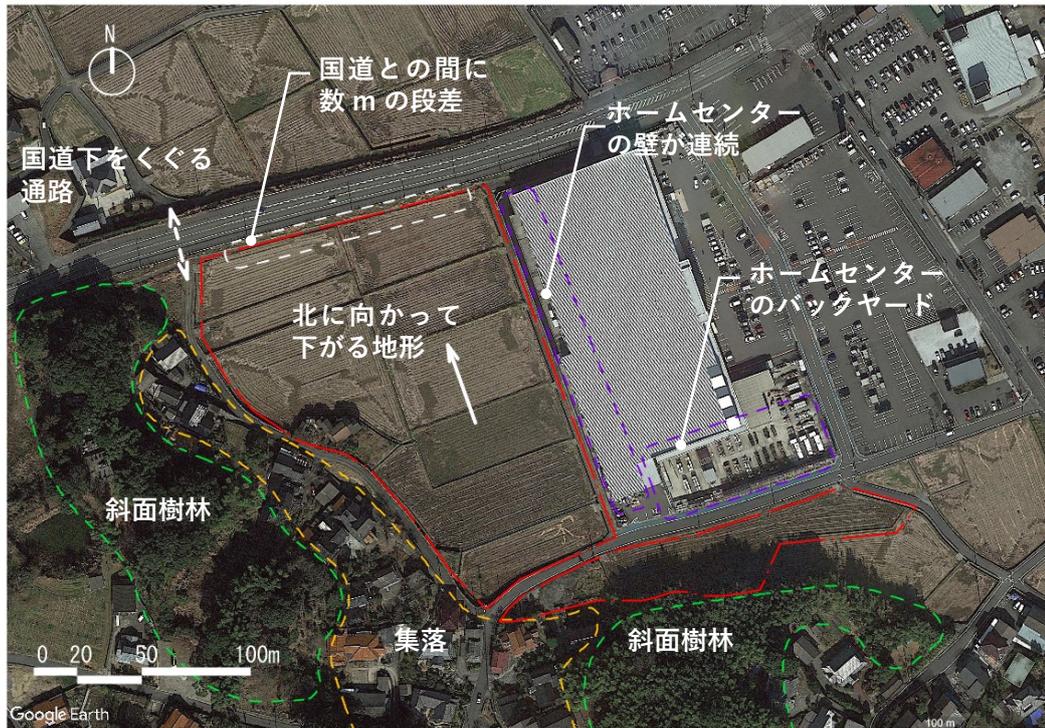
周辺土地利用

②法規制

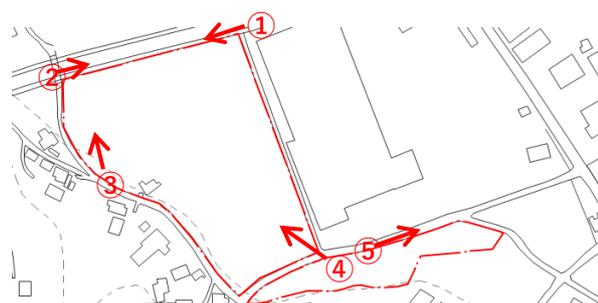
- ・町全域が都市計画区域に指定されている。市街化区域・用途地域の指定はなく、容積率 200%、建ぺい率 70%である。
- ・計画地全域が農業振興地域・農用地区域となっている。

③計画地の現況

- ・計画地全体が水田となっている。
- ・南から北に向かって緩やかに下がる地形となっており、国道沿いは、国道よりも数 m 低い。
- ・国道下をくぐって、北側農地に抜ける道路がある。
- ・計画地東側はホームセンター建物の壁面が連続している。南側敷地はホームセンターのバックヤードに面している。
- ・西～南側は集落と斜面樹林となっている。北から西側は農村景観が広がる。



計画地現況 Google Earth



2. 事例調査

(1) 全国道の駅の分析

- ・全国の道の駅の登録数は1,180駅に及ぶ（2020年7月現在）。
- ・これら全国の道の駅を概観し、それぞれの道の駅が重視する要素に着目して下表のように分類を行った。
- ・各事例が成立している条件と、川崎町での計画条件を比較検討すると、川崎町では地域コミュニティの拠点としての機能を重視する「地域拠点型」を中心しつつ、「商品開発型」や「防災拠点型」の要素も取り入れていくことが望ましい。

道の駅の分類

タイプ		方向性	道の駅事例		川崎町での可能性	
商品重視	産直中心型	新鮮で豊富な農水産物を売り物に集客	うきは (福岡県)	野菜・果物の直売が人気	×	県内他地域に比べて農産物の生産量は少ない
	商品開発型	地域産品を加工して独自の商品を開発・販売	四万十とおわ (高知県)	地元の栗を材料に商品開発	△	地域の農業・商工業の振興に寄与できるが、企画力やデザインのノウハウが必要
観光集客重視	観光地紹介型	周辺の観光地の紹介や情報提供を重視	ニセコビュー プラザ(北海道)	観光コンシェルジュ等が充実	×	周辺に強力な観光地は少なく、道の駅のメインの機能とはなりにくい
	集客拠点形成型	道の駅が観光レクリエーション拠点となって集客	おおとう桜街道 (福岡県)	温泉、子どもひろば	△	大面積にわたって多額の投資が必要となり、ハードルが高い
			川場田園プラザ (群馬県)	多数の飲食店、体験施設等		
うつのみや ろまんちっく村 (栃木県)	46haの滞在体験型ファームパーク					
コミュニティ重視	地域拠点型	地域コミュニティの拠点となる施設を併設	美山ふれあい 広場(京都府)	行政・各種福祉施設を併設	○	「住み続けたい町」「健幸都市」を目指す川崎町の拠点施設としてふさわしい
			むつぎわスマート ウェルネスタウン・ 道の駅・つどいの 郷(千葉県)	健幸都市構想の一環。温泉、レンタルルーム		
	防災拠点型	地域の防災拠点としての役割を重視	遠野風の丘 (岩手県)	東北大震災時に後方拠点として機能	△	防災時の拠点としての機能は果たすことが望ましいが、メインの機能としては考えにくい

■商品重視型（産直中心型）



うきは（福岡県）

■商品重視型（商品開発型）



四万十とおわ（高知県）

■観光集客重視型

（観光地紹介型）



ニセコビュープラザ（北海道）

■観光集客重視型（集客拠点形成型）



おおとう桜街道（福岡県）



川場田園プラザ（群馬県）



うつのみや ろまんちっく村（栃木県）

■コミュニティ重視型（地域拠点型）



美山ふれあい広場（京都府）



むつぎわスマートウェルネスタウン・道の駅・つどいの郷（千葉県）

■コミュニティ重視型

（防災拠点型）



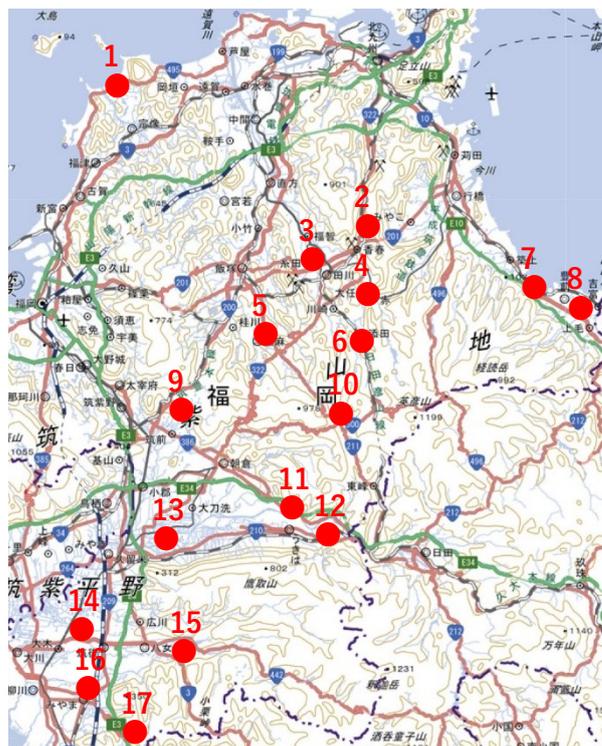
遠野風の丘（岩手県）

資料出典：各施設 HP

(2) 県内道の駅の分析

①概要

- ・福岡県内には現在 17 駅の道の駅がある。
- ・各道の駅の概要を下表に示す。



道の駅の分布

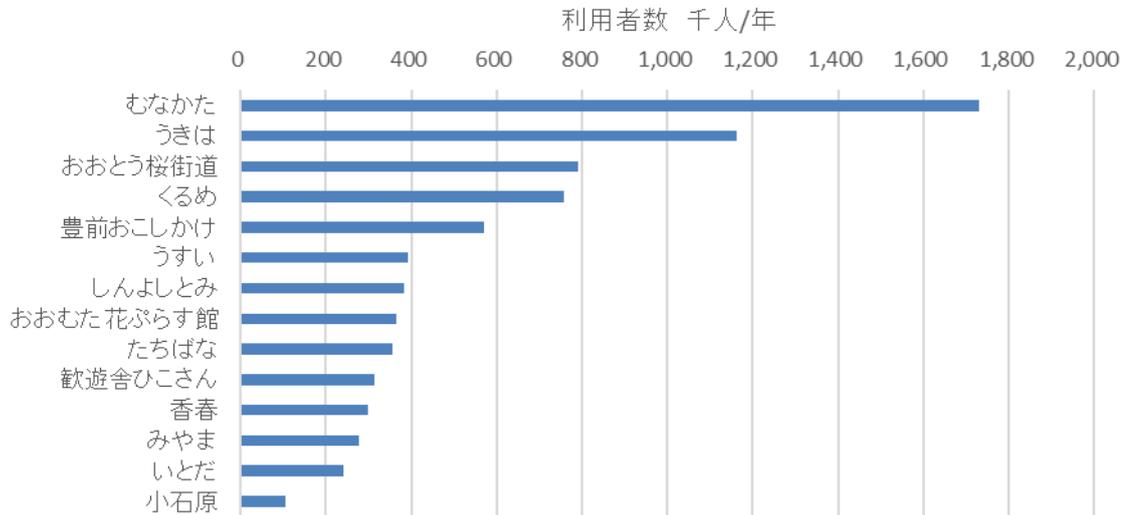
番号	道の駅名	施設						駐車台数	
		レストラン	軽食喫茶	温泉施設	公園・広場	直売所	観光案内	小型	大型
1	むなかた	○	○			○	○	359	26
2	香春		○		○	○		73	13
3	いとだ		○			○		94	14
4	おおう桜街道	○		○	○	○		481	5
5	うすい	○	○			○	○	170	3
6	歓遊舎ひこさん	○			○	○	○	35	1
7	豊前おこしかけ	○			○	○	○	72	10
8	しんよしとみ		○		○	○		73	16
9	筑前町みなみの里	○			○	○		205	4
10	小石原	○	○			○		36	3
11	原鶴	○				○	○	122	9
12	うきは	○	○		○	○	○	160	8
13	くるめ	○	○		○	○	○	111	10
14	おおき	○			○	○	○	46	6
15	たちばな	○	○			○	○	114	8
16	みやま		○			○	○	170	12
17	おおむた	○	○			○	○	52	6

道の駅の概要

国土数値情報のデータをベースとして、各道の駅ホームページの情報をもとに修正

②利用者数

- ・年間利用者数はむなかたが圧倒的に多く約 170 万人に上る。うきは、おおとう桜街道、くるめがこれに続き、約 80~120 万人である。
- ・他の道の駅は年間 20~40 万人のところが多い。
- ・むなかた、うきはは農水産物の直売が人気を呼んでいる。おおとう桜街道は温泉等の施設の充実によるものと思われる。

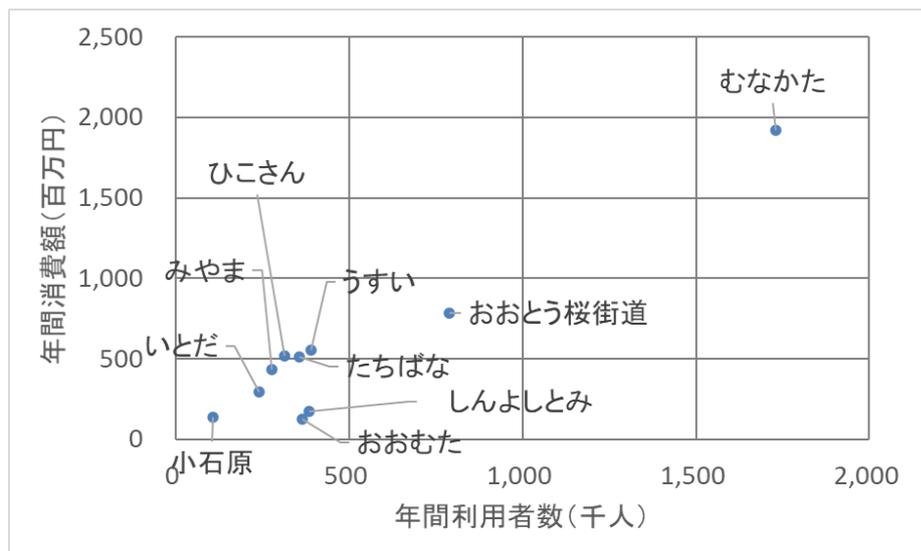


年間利用者数

資料：H29 福岡県観光入込客調査（うきはのみ H28）

③年間消費額

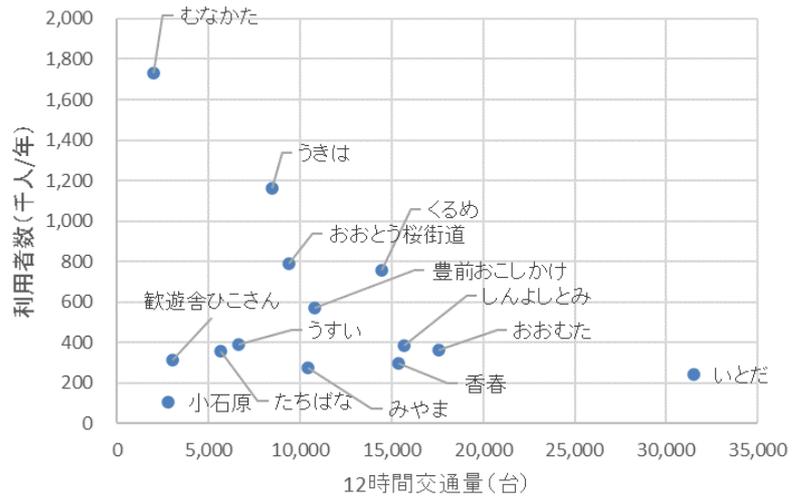
- ・年間利用者数が多いほど年間消費額も多い傾向があり、むなかたが圧倒的に消費額が多い。



資料：H29 福岡県観光入込客調査

④前面道路の交通量と利用者数の関係

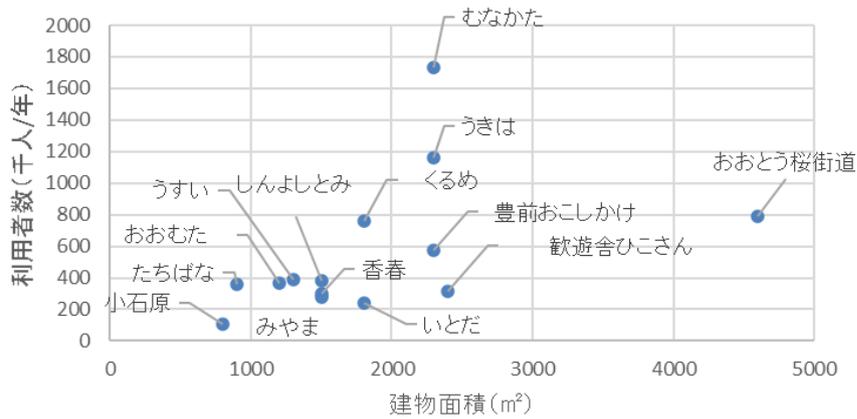
- ・前面道路交通量と利用者数は必ずしも強い相関関係にはない。



前面道路交通量と利用者数の関係 交通量は H27 道路交通センサスによる

⑤建物面積と利用者数の関係

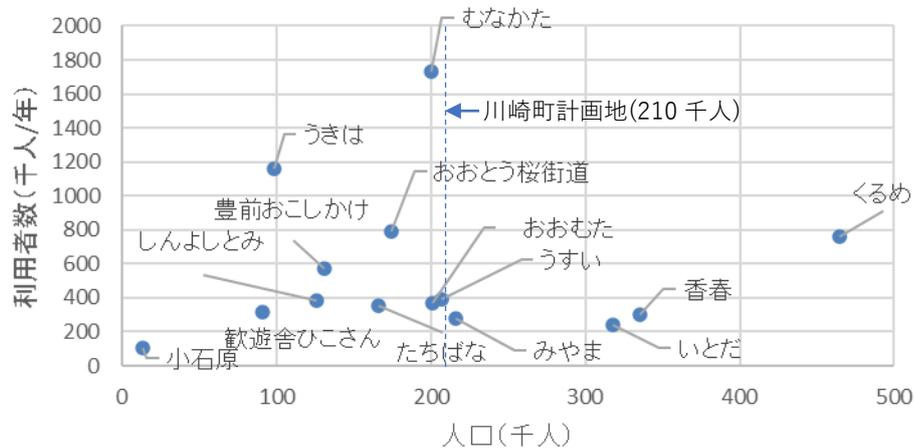
- ・建物面積が多いほど利用者数が多い傾向がややみられる。



建物面積と利用者数 建物面積は航空写真より図上計測

⑥周辺人口と利用者数の関係

- ・車で 30 分圏の人口と利用者数の関係を調べたところ、はっきりとした比例関係にはない。



車で 30 分圏の人口と利用者数

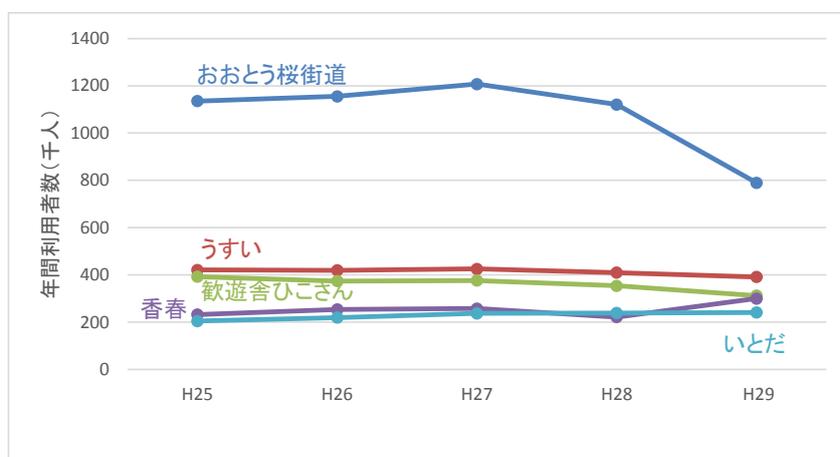
人口は「地図で見る統計 (jSTAT MAP)」による。車の速度 30km/h で想定。

(3) 近隣道の駅の概要

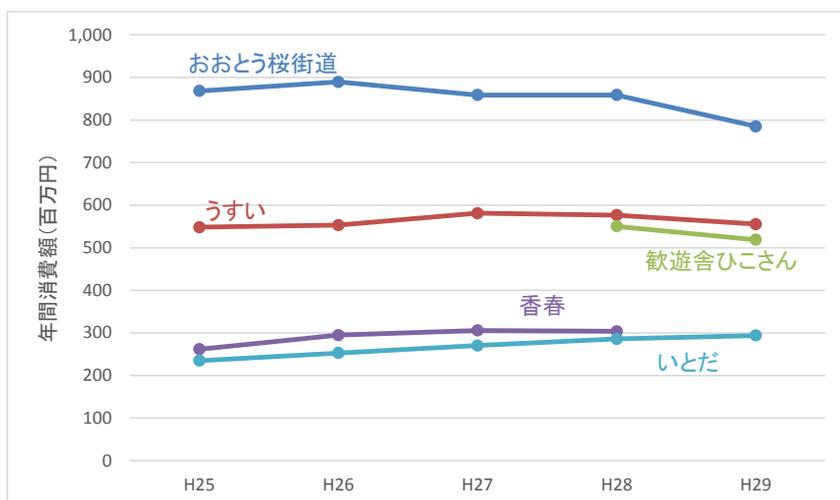
①道の駅の概要

近隣道の駅概要

名称	施設概要	駐車台数		床面積
		大型	普通車	
いとだ	物産直売所 フードコート	14	94	約 1,800 m ²
香春	物産直売所 テナント(2 店舗) 加工室、テラス、倉庫、事務室	13	75	約 1,500 m ²
おおとう桜街道	もみじ館 (物産直売所、食事処、1 億円トイレ) さくら館 (大浴場・露天風呂、薬石浴、家族風呂) こども広場 (電動遊具、コンビネーション遊具)	5	481	約 4,600 m ²
歓遊舎ひこさん	物産館 レストラン、パン工房、もち工房 こどもわくわくパーク(乗り物) クアハウスハピネス(プール、ジャグジー、足湯、トレーニング室)	4	115	約 2,400 m ²
うすい	物産販売所 うどん・そば、たこ焼き、パン工房、菓子工房	3	170	約 1,300 m ²



年間利用者数の推移

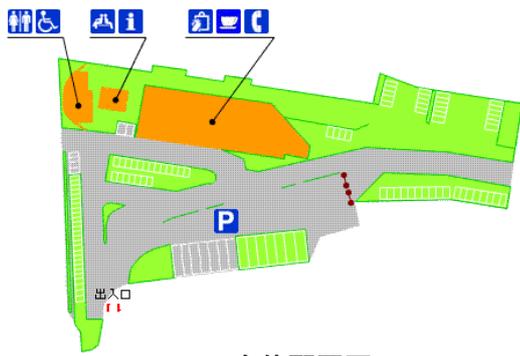


年間消費額の推移

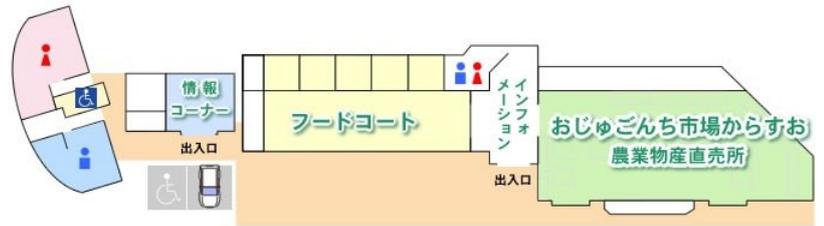
資料：福岡県観光入込客推計調査

■道の駅いとだ

資料出典：各施設 HP および九州の道の駅 HP



全体配置図



施設平面図



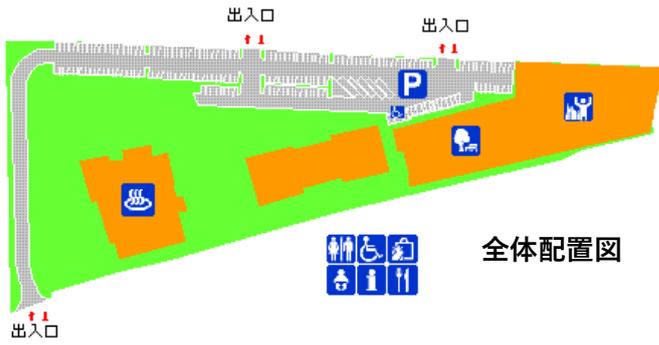
■道の駅香春



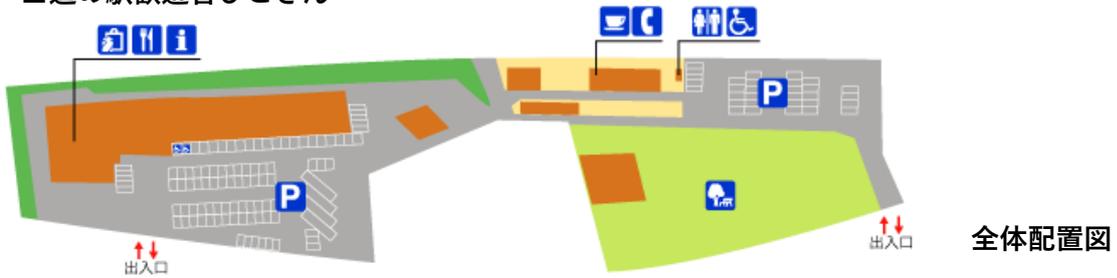
全体配置図



■道の駅おとう桜街道



■道の駅飲遊舎ひこさん



3. ニーズ調査

(1) 住民要望

①調査方法

- ・川崎町民を中心に、川崎町「道の駅」についてのアンケートを実施した。
- ・町内9か所にアンケート用紙および回収箱を設置した。

設置場所：川崎町役場庁舎、コミュニティセンター、B&G 海洋センター、安宅交流センター、

町立図書館、総合福祉センター、老人福祉センター、豊前川崎駅、農産物直売所「De・愛」

- ・同じ内容でインターネットによるアンケート調査を行った。町の広報紙と町ホームページ上で回答を広く呼びかけた。広報紙にはQRコードとURLを、ホームページにはリンクを掲載し、アンケートページにアクセスできるようにした。

「道の駅」アンケート募集についての掲載

出典：広報かわさき 2020年9月号

「道の駅」アンケート調査についての掲載

出典：川崎町ホームページ



De・愛におけるアンケート用紙の設置



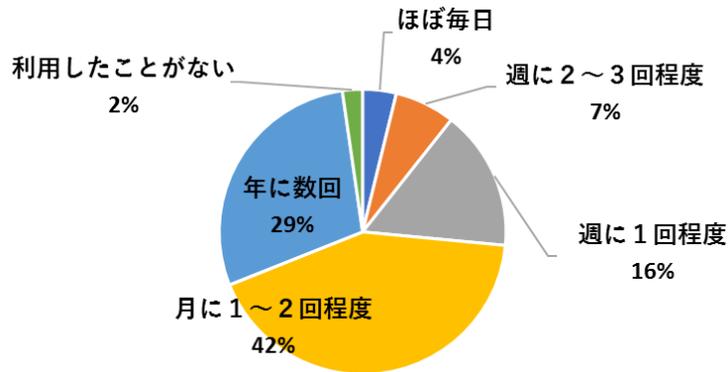
川崎町立図書館におけるアンケート用紙の設置

②調査結果

- ・実施期間：2020年9月1日～20日
- ・対象者：川崎町民、来訪者
- ・回収数：132通（用紙53通、インターネット回答79通）
- * 設置型アンケートとインターネットでの募集により行ったため、回収率は算出していない。

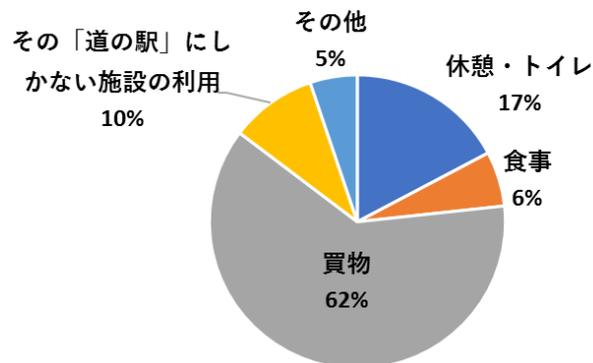
問1 ふだん、どれくらいの頻度で「道の駅」を利用していますか。

- ・7割の人が月に1回以上は利用している。



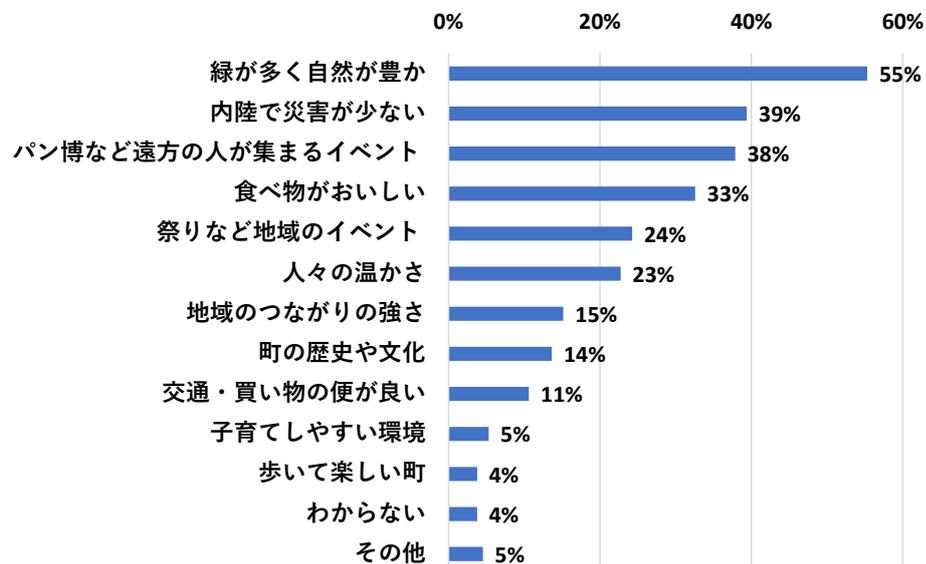
問2 「道の駅」を利用される1番の目的は何ですか。

- ・6割の人が買物と答えており、道の駅の商業施設的な利用が多いことがわかる。



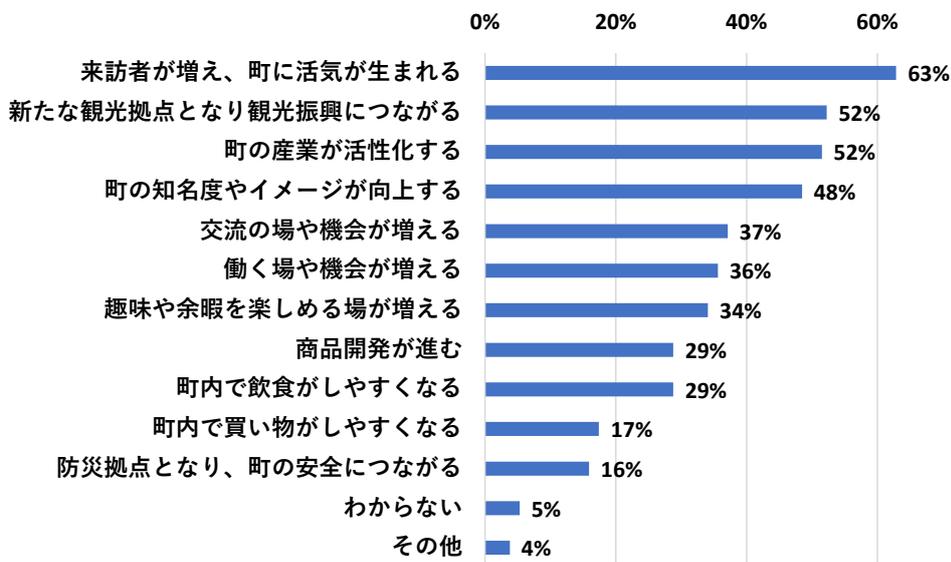
問3 川崎町の魅力はどんなことだと思いますか？（複数選択可）

- ・「自然が豊か」「災害が少ない」など、暮らしやすさが評価されているほか、パン博の評価が高い。



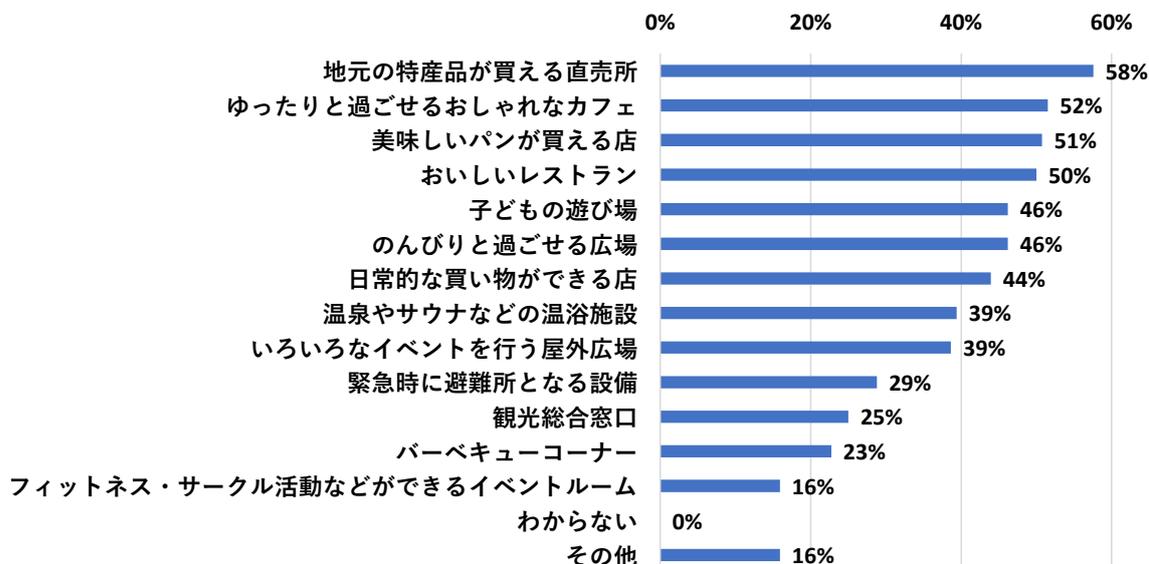
問4 川崎町に「道の駅」ができることで、町やみなさんにどんな効果があることを期待しますか？〔複数選択可〕

- ・多くの来訪者が訪れることでイメージの向上や産業振興に寄与するといった期待が持たれている。



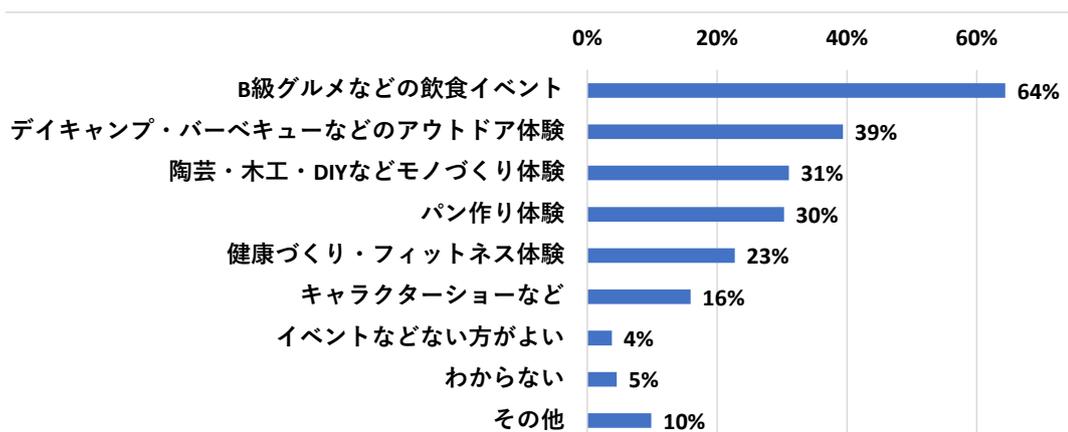
問5 新しく作る「道の駅」は、車で来た人が買い物や休憩をするだけでなく、皆さんが気軽に訪れて楽しめるものにしたいと考えています。「道の駅」にどんな施設があったらいいと思いますか。〔複数選択可〕

- ・「パン」「特産品」「日常の買い物」などの買い物の場所が望まれているほか、「ゆったり過ごせるカフェ」「子どもの遊び場」「のんびり過ごせる広場」など、一定の時間を過ごすための場所の希望も多い。



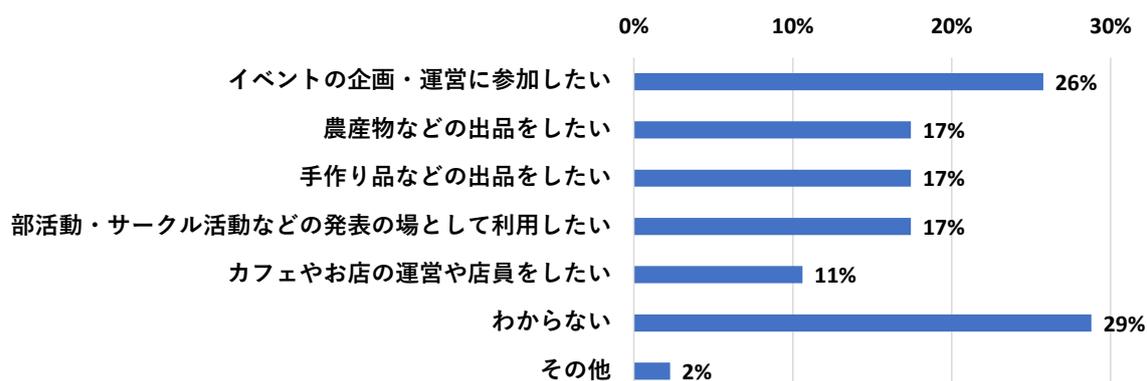
問6 川崎町の「道の駅」では、買物や食事だけでなくいろいろなイベントも楽しめるようにしたいと考えています。どんなイベントに参加してみたいですか。〔複数選択可〕

・「飲食イベント」や「アウトドア体験」への要望が多い。

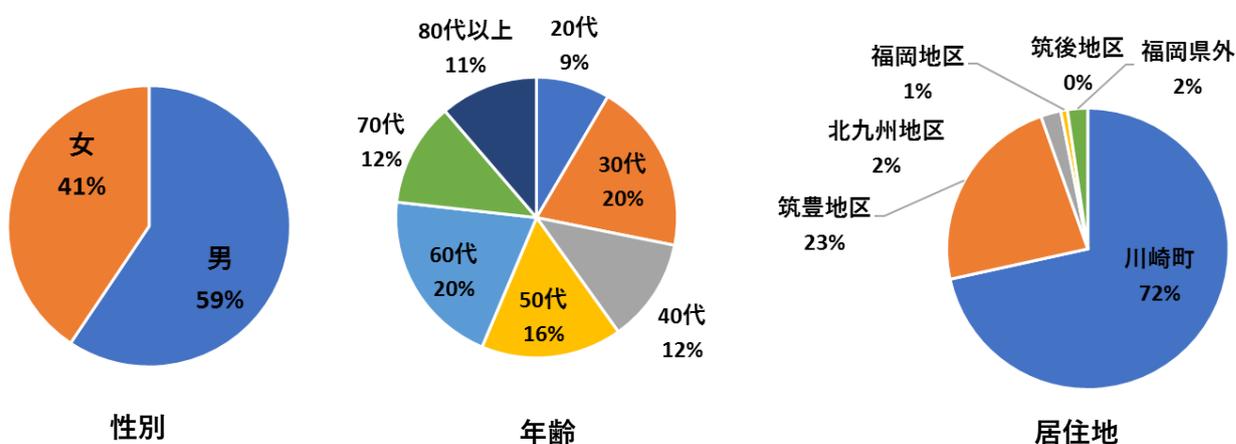


問7 川崎町の「道の駅」は、みなさんが積極的に参加できるものになりたいと考えています。道の駅でやってみたいことはありますか。〔複数選択可〕

・「イベントの企画・運営」への要望が多いほか、出品、出店を希望する人もおり、町民の参加意欲が見受けられる。



問8 あなたご自身についてお聞かせください。



(2) 町内関係団体ヒアリング

- ・関係する町内主要団体に対してヒアリングを実施した。

区分	所属
直売所関係者	川崎アグリ De・愛出荷者組合 農業後継者クラブ
商工団体	豊前川崎商工会議所
町内経営者	ラピュタファーム IKURI パン工房De・愛 パワーフィットネス・イーズ
計画地近隣店舗	パワー川崎店 ジョイフル田川川崎店

- ・ヒアリング結果の概要は以下の通り。

項目	概要
道の駅のコcept	<ul style="list-style-type: none"> ・何のために設置するのか、コンセプトを明確にする必要がある。 ・訪れる人が増えることで町の活性化につながると良い。 ・川崎には目立った観光地や特産品がない。パン博にからめたり特産品の開発などにより町のシンボルになってほしい。 ・農業後継者の育成につながるような直売所になるなら意味がある。 ・需要を喚起し、雇用にもつなげるものにすべき。
導入機能	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生が遊んだり交流できる場があると良い。 ・ふるさとに愛着が残るような場所に。 ・地域産品を取り扱うのが良い。パンを扱うのも良い。 ・子ども連れで半日くらい過ごせるキッズスペースがあると良い。 ・英彦山のバイクツーリング客も多いため、その対応も。 ・チャレンジショップも良い。募集をかけるお手伝いもできる。 ・商工会で実施しているイベントの場所を移すことは可能。 ・パン博は会場も手狭で渋滞を招くなど近隣に迷惑をかけている。道の駅に移すのも良いかもしれない。 ・川崎のおいしい野菜や果物が味わえる施設があると良い。
道の駅の集客	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺に道の駅が多く差別化するのは難しい。 ・最初は人が来るだろうが、継続させるのは難しい。 ・車に乗る人が減り集客は減少傾向。 ・地域経済の活性化につながる日常的な集客は難しい。人が集まれば成功という時代ではない。
出荷者の見込み De・愛との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・出荷者は多くない。 ・農産物の出口としてはDe・愛で充分。 ・De・愛との両立が難しい。直売所機能は立地のよい道の駅に移した方が良いのでは。 ・立地の違いで利用者の傾向が異なる。De・愛と住み分けをしたい。 ・直売所機能はDe・愛のサテライトとし、出荷物の受入れ窓口は1か所にする方が良い。
道の駅との連携の可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・採算が合わず、連携の可能性はない。 ・技術提供や、安いブースに商品を置く程度は可能かもしれない。

その他	<ul style="list-style-type: none">・子どもの心の健康づくりにも目を向けてほしい。健全な子どもの育成が健全な町づくりにつながる。・仮に健康づくりを目的とするなら、公民館単位で実施するなど、大きなお金を使わずにやる方法を検討してほしい。・誰が運営するかで成否に関わる。
-----	---

4. 基本理念及びコンセプトの検討

(1) 基本的な考え方

- ・前章までに整理した計画条件から、川崎町の優位性、課題、目標、道の駅への期待等は以下のようによまとめられる。

川崎町の優位性	交通	<ul style="list-style-type: none"> ・国道 322 号の整備（将来 8,000 台/日） ・県道 95 号の交通量が多い（18,000 台/日）
	商業環境	<ul style="list-style-type: none"> ・県道 95 号沿いに店舗が集積
	自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ・自然豊かな町
	産業	<ul style="list-style-type: none"> ・米・野菜・果物を生産 ・パン博が定着
川崎町の課題	人口	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少・高齢化
	競合	<ul style="list-style-type: none"> ・10km 圏に 5 か所の道の駅
	農産物	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物出荷者は少ない
川崎町の目標	総合計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ReBorn! 川崎町 人を育み、町を創る。10 年先も住み続けたい町へ ・重点プロジェクト：人・暮らし・つながりを育む
道の駅への期待	アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・町のイメージ向上、産業振興への期待が多い ・買い物の場、ゆったり過ごせる施設への希望が多い
	町内ヒアリング	<ul style="list-style-type: none"> ・町の活性化、町のシンボル、雇用拡大への期待 ・チャレンジショップ、イベント、地域産品販売、キッズスペース等を希望
事例	全国事例	<ul style="list-style-type: none"> ・商品重視、観光重視、地域コミュニティ重視のタイプがある
	県内事例	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの道の駅で利用者数は 30 万人/年程度
	周辺事例	<ul style="list-style-type: none"> ・いずれも物産直売が中心 ・付帯施設として温泉（おおとう）、屋外遊具（おおとう、歓遊舎ひこさん）

- ・以上の点から、道の駅の計画にあたっては、特に下記に留意する。

①周辺の道の駅との差別化

- ・10km 圏内に 5 か所の道の駅があることから、これらとの違いを明確にする必要がある。
- ・周辺の道の駅はいずれも物産直売が中心となっているが、川崎町は出荷者数もそれほど見込めないことから、直売以外の要素を重点的に検討する。

②町の施策との連携

- ・物産直売による地域経済への貢献を目的とする道の駅が多い中で、川崎町は別の観点からの地域貢献が求められる。町の総合計画と連携しながら、町の発展に寄与していく必要がある。

③De・愛との連携

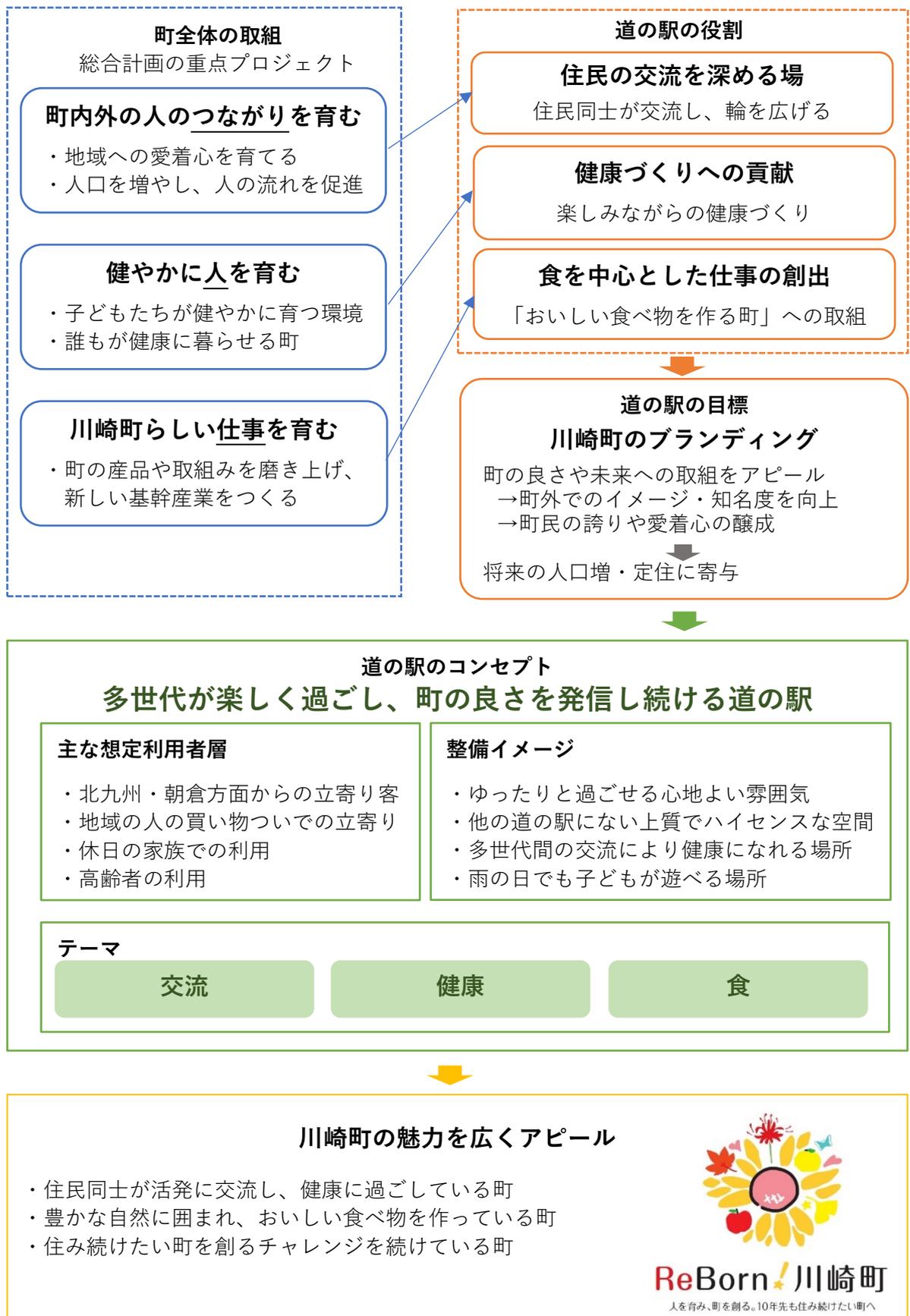
- ・拡大整備を計画中の De・愛と連携することで、川崎町の魅力をより高め、観光客の増加を図る。

④収益性の確保

- ・施設自体の収益性を確保するとともに、町内の産業振興につなげていく仕組みを構築する。

(2) コンセプト

- ・道の駅のコンセプトを下記のように設定する。



(3) 整備イメージ

- ・コンセプトの「交流」、「健康」、「食」に加え、休憩・情報発信・防災機能について、展開イメージの例を以下に示す。今後、導入施設の取捨選択を行うとともに具体的内容を検討し、より特徴のある道の駅づくりを目指す。

①交流（屋内）

●カフェ

- ・ゆったりと落ち着いて過ごせる上質な空間づくりを行う。



●多目的室

- ・サークル活動や健康づくりなど、住民が集まって自由に使える場所を提供する。



●キッズスペース

- ・雨天でも遊べ、大人も一緒に楽しめるスペースを提供する。



●図書コーナー・クラフト体験

- ・落ち着いた空間でゆったりと読書を楽しめるスペースを設ける。
- ・多様なクラフトの体験ができるコーナーを設置する。



出典：各施設 HP 1：すさみ町多世代交流施設（和歌山県） 2：延岡市駅前複合施設エンクロス（宮崎県） 3：江北町みんなの公園（佐賀県） 4：道の駅パレットピアおおの（岐阜県） 5：道の駅国見あつかしの郷（福島県） 6：諫早こどもの城（長崎県） 7：武雄こども図書館（長崎県） 8：木城えほんの郷（宮崎県） 9：道の駅みとう（山口県）

②交流（屋外）

●芝生広場・イベント広場

- ・自由にのびのびと過ごせる芝生の広場を設ける。
- ・大屋根のある広場を設け、パン博等のイベントを開催する。



●フラワーガーデン

- ・四季折々の草花を楽しめる本格的な庭園を設け、広域からの集客を図る。
- ・町民が散策したり、草花の手入れに参加することで、健康づくりや交流の場とする。
- ・小動物とのふれあいの場や、いちご狩りなどの場を併設することも考えられる。



③健康

●健康教室等の開催

- ・屋内外に教室等が開催できるスペースを設け、体や心の健康を保つ場を提供する。



●プレイグラウンド

- ・運動のための広場や、子どもが遊べる遊具、健康遊具等を設置する。
- ・軽く汗を流した後に利用できるシャワーブースを設ける。



出典：各施設 HP 1：江北町みんなの公園（佐賀県） 2：すさみ町多世代交流施設（和歌山県） 3：停車場ガーデン（長野県） 4：かてんパパガーデン（長野県） 5：みつけイングリッシュガーデン（新潟県） 6：福岡市健康づくりサポートセンター 7：道の駅センザキッチン（山口県） 8：サンガスタジアム（京都府） 9：北九州市勝山公園 10：道の駅北川はゆま（宮崎県）

④食

●飲食施設

- ・明るく開放的で、思い思いに過ごせるカフェ・レストランを設ける。
- ・広場にはキッチンカーが駐車できるスペースを設ける。
- ・短時間滞在する利用者向けにファストフードのコーナーを設置する。



●物販施設

- ・パン工房やスイーツの店を設け、パン博との相乗効果でパンの町川崎を印象づける。
- ・おいしい地元産品を厳選したセレクトショップを設ける。
- ・町民が店づくりに挑戦できるチャレンジショップを設ける。



⑤休憩・情報発信

- ・De・愛と道の駅を結ぶサイクリングコースを設定し、レンタサイクルを設ける。
- ・De・愛をはじめ町内観光資源を案内する情報発信コーナーを設置する。
- ・トイレは優れたデザインとし、道の駅を特徴づける施設とする。
- ・キャンピングカーが泊まれるスペースを提供することも考えられる。



⑥防災

- ・災害時の受援拠点や緊急避難場所として道の駅を活用する。
- ・防災倉庫、緊急用電源装置、防災用テント、かまどベンチ等を設置する。



出典：各施設 HP 1：ファームサーカス（兵庫県） 2：センザキッチン（山口県） 3：福智町図書館 4：道の駅伊豆のへそ（静岡県） 5：伊都案蔵里（福岡県） 6：道の駅富士川（山梨県） 7：道の駅米沢（山形県） 8：THE TOKYO TOILET（東京都）

(4) 周辺道の駅との差別化

①路線ごとの道の駅の配置

- ・道の駅いとだ、道の駅香春については国道201号通過者が主な利用者となり、道の駅うすい、道の駅歓遊舎ひこさんも路線が異なる。
- ・国道322号沿いとしては、道の駅おおとうが至近となるため、特に道の駅おおとうとは性格の異なる道の駅が求められる。



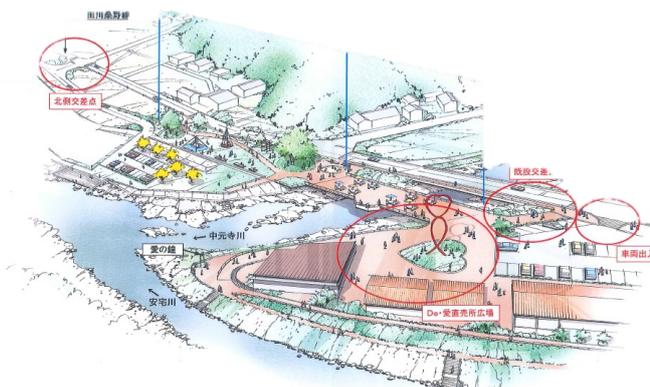
②コンセプト・施設内容の違い

- ・周辺の道の駅はいずれも直売所をメインとしているのに対し、川崎町では町内産品はセレクトショップ的な扱いに留め、多世代交流や健康づくりを中心に計画している。
- ・特に、ゆったり過ごせる心地よい雰囲気づくりや、上質でスタイリッシュな空間づくりを目指しており、他の近隣の道の駅とは一線を画す施設づくりを行うこととしている。

道の駅	施設内容	タイプ分類		
		商品重視	観光集客	コミュニティ
いとだ	直売所、軽食・喫茶	◎		
香春	直売所、軽食・喫茶、広場	◎		
おおとう	直売所、レストラン、温浴施設、広場、遊具	○	◎	
うすい	直売所、レストラン、広場、観光案内	◎		
ひこさん	直売所、軽食・喫茶、広場、遊具、観光案内	◎	○	
川崎 (案)	多世代交流施設、レストラン、軽食・喫茶、公園、観光案内 (レンタサイクル)	○	○	◎

③町内施設との連携による相乗効果

- ・川崎町の既存農産物直売所「De・愛」は拡大整備を計画中である。道の駅との連携により観光客の増加を図り、2施設により町を活性化することができる。
- ・De・愛は英彦山方面へのサイクリングの途中に立寄るサイクリストも多く、道の駅をつなぐサイクリングルートの整備も検討中である。



De・愛の整備イメージ



2施設の連携

(5) 参考事例

①長門おもちゃ美術館 (山口県)

- ・ NPO 法人が運営する「東京おもちゃ美術館」の監修を受けて、各地方の NPO 法人等が独自に「おもちゃ美術館」を設立・運営するもの。
- ・ 道の駅センザキッチン (山口県) に、「長門おもちゃ美術館」が併設されている。



長門おもちゃ美術館

■長門おもちゃ美術館の運営概要

東京おもちゃ美術館の監修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学芸員養成講座開催、イベント時の講師派遣 ・ グッドトイ入選作品 40 作品を毎年業者から寄贈してもらえる ・ 監修料は入館料の 1%
運営スタッフ	<ul style="list-style-type: none"> ・ NPO による運営 ボランティアスタッフの協力
収支	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入場料、ミュージアムショップの収益で運営 (賃料は免除)

■おもちゃ美術館導入によるメリット

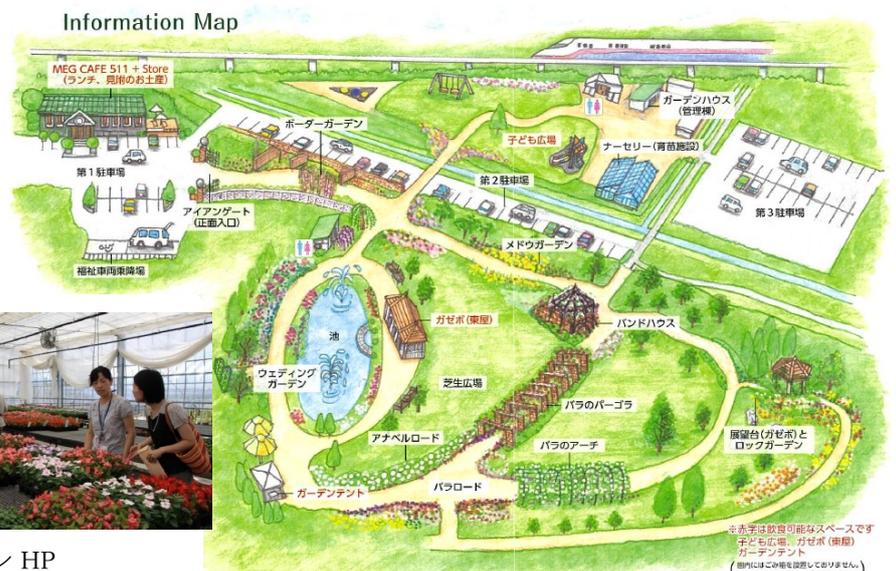
集客効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周辺に同様の施設がなく 広域からの集客が見込める (長門おもちゃ美術館 2.7 万人/年) ・ 子どもだけでなく親や祖父母など 多様な層を集客できる ・ 雨天時も利用でき、屋外の遊び場より集客力がある
PR 効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育てしやすい町として、町のイメージ向上に寄与する ・ 子育て世代の流入による人口増も期待できる
教育効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本や知育玩具に触れることができ、長い目で見て 学力向上につながる ・ 東京おもちゃ美術館との交流により、教育・福祉のレベルが高まる
町民の交流促進効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大人も楽しめるおもちゃも充実しており、多世代交流、心の健康維持の場になる ・ 子どもを連れていく場所がないという 町民の声に応えることができる
国へのアピール効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい道の駅のありかたとして 国交省も注目している

②みつけイングリッシュガーデン（新潟県）

- ・産業団地区画内の公園。特徴のある公園づくりのためイングリッシュガーデンの専門家に公園監修を依頼。コンセプトは
 - ①幅広い世代や分野の人々が集い交流が生まれる公園
 - ②将来にわたり市民ぐるみで管理運営していく公園
 - ③広く市内外に発信できる個性と魅力を持ち合わせた公園
- ・隣接してホテルが立地。近隣に道の駅「パティオにいがた」がある。

■みつけイングリッシュガーデンの概要

開設	2009年	施設内容	・イングリッシュガーデン、子ども広場、池
面積	約2.2ha		・レストラン ・ナーセリー
来場者	14万人/年	建設費	・公園6億円〔都市公園等総合補助事業50%〕
入園料	無料		・レストラン8.8千万円〔地方創生拠点整備〕
運営	<ul style="list-style-type: none"> ・市の単費による運営 ・日常管理は市民ボランティア団体（会員120名、費用補償500円/時）による ・運営費30,146千円（管理費21,621千円、事業費8,525千円：2018年） ・開園4年前より団体立ち上げ ・花苗は市内各所にも配られる ・レストランは指定管理 		
効果	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の人たちの散歩の目的地となり、作業中のボランティアとの会話も楽しむなど、市民生活に変化が生まれた。結果として高齢者（健康運動教室参加者）の年間医療費が10万円下がった。 ・産業団地への企業進出やホテル誘致のきっかけとなった。 ・ガーデンが市民にプライドを与えることとなった。 		



出典：みつけイングリッシュガーデン HP

5. 導入施設規模の検討

(1) 駐車場

①小型車、大型車駐車まず数算定

1) 中部地方整備局道路設計要領による算定

- 中部地方整備局道路設計要領によると、休憩施設における駐車まず数は以下の算定式により求められる。

$$\text{駐車まず数} = \text{区間延長距離} \times \text{計画交通量} \times \text{立寄率} \times \text{ラッシュ率} \times \text{駐車場占有率}$$

車種	立寄率	ラッシュ率	占有率
小型車	0.007	0.10	0.25
大型車	0.008	0.10	0.33

出典：中部地方整備局 道路設計要領 第3章

- 計画地の前面道路は国道 322 号であるが、県道 95 号からも約 200m と非常に近く、県道 95 号からの立寄り利用も十分見込まれる。そこで両者の交通量に基づき駐車まず数を算定する。
- 区間延長距離は以下のように設定する。
 - 国道 322 号：計画地から東側へは約 10km 先に道の駅香春があるが、西側へはないことから、15km（中部地方整備局道路設計要領における道の駅区間延長距離 10～20km の中間地）とする。
 - 県道 95 号：沿道には道の駅が他にないことから 25km（中部地方整備局道路設計要領における区間延長距離の最大値）とする。
- 交通量は以下による。
 - 国道 322 号：県による将来交通量予測値
 - 県道 95 号：平成 27 年度全国道路・街路交通情勢調査

道路	車種	区間延長 距離 km	交通量 台/日	立寄率	ラッシュ 率	占有率	駐車まず 数
国道 322 号	小型車	15	6,840	0.007	0.10	0.25	17.96
	大型車	15	1,160	0.008	0.10	0.33	4.59
県道 95 号	小型車	25	17,541	0.007	0.10	0.25	76.74
	大型車	25	1,092	0.008	0.10	0.33	7.21
合計	小型車						95 台
	大型車						12 台

2) 目標客数に基づく算定

- ・ 来客数によって必要駐車台数を算定すると以下のように求められる。

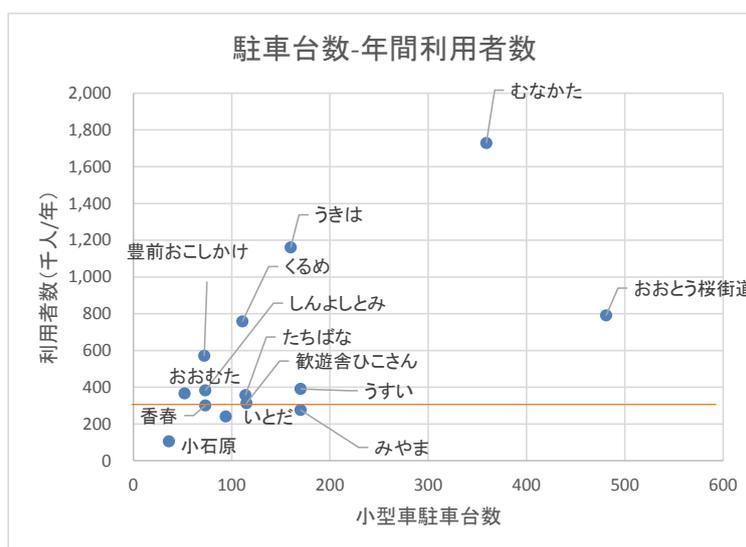
$$\text{必要駐車台数} = \text{年間来客数} \times \text{ピーク日集中度} \times \text{時間集中度} \div \text{平均乗車人員} \times \text{駐車場占有率} \\ (\text{平均駐車時間} / 60 \text{分})$$

項目	数値	内容
目標客数	300,000 人/年	県内道の駅事例より設定
ピーク日集中度	1 %	「造園ハンドブック」より年間通じて利用される施設のため、四季型の公園の数値を採用
時間集中度 (ラッシュ率)	10%	西日本高速道路株式会社パーキングエリアの数値を採用
平均乗車人数	1.3 人/台	「道路交通センサス H22」国土交通省道路局
平均駐車時間	25 分	西日本高速道路株式会社パーキングエリアの数値を採用

$$300,000 \text{ 人} \times 1\% \times 10\% \div 1.3 \text{ 人/台} \times (25 \text{ 分} / 60 \text{ 分}) = \underline{96.2 \text{ 台}}$$

3) 県内事例との比較

- ・ 県内道の駅事例によると、年間利用者数 30 万人程度に対して 80~180 台程度の駐車台数が確保されている。



4) まとめ

- ・ 以上より、いずれも 100 台程度の数値が見込まれる。ここでは 1) の中部地方整備局道路設計要領による算定を採用する。
- ・ なお、混雑時のための臨時駐車場を別途確保する。

②身障者用駐車まず数算定

- ・身障者用駐車スペースに関しては、以下のように算定する。

駐車まずの区分	身障者用小型駐車まず数
全小型駐車まず数 ≤ 200	全小型駐車まず数 × 1/50 以上
全小型駐車まず数 > 200	全小型駐車まず数 × 1/100 + 2 以上

出典：「設計要領第 6 集 建築施設編」 西日本高速道路株式会社

$$94.7 \times 1/50 = 1.89 \rightarrow \underline{2 \text{ 台}}$$

③二輪車専用駐車場

- ・二輪車専用駐車スペースに関しては、以下のように算定する。

計画交通量	駐車台数
30,000 台未満	4
30,000 台以上	8

出典：「設計要領第 6 集 建築施設編」 西日本高速道路株式会社

$$\text{計画交通量 } 30,000 \text{ 台未満より} \rightarrow \underline{4 \text{ 台}}$$

④駐車場面積

- ・駐車場面積は、車路スペースを含めた 1 台あたり必要面積に基づき下表のとおり算出する。
- ・駐車場スペース以外にも植栽帯、車両動線等が必要であることから、算出した駐車場面積の半分程度をその他スペースとして見込む。
- ・なお、実際の車室配置により、駐車場面積は変動する。

車種	駐車まず数 (台)	駐車所要面積 (㎡/台)	面積 (㎡)
小型車	95	20.0 (駐車角 = 90°)	1,900
障がい者用	2	28.0 (駐車角 = 90°)	56
大型車	22	141.9 (駐車角 = 90°)	1,703
二輪車	4	2.5m × 5.m = 12.5(4 台につき)	12.5
小計			3,671
その他スペース			1,836
合計			5,507

(2) トイレ

①便器、洗面器数

・ 駐車ます数からトイレの便器数および洗面器数を算定する。

項目	記号	小型車	大型車
駐車ます数	P	95	12
駐車回転数	r	2.4	2
駐車台数	$Pa = P \times r$	228	24
平均乗車人員*	W	1.30	1.31
乗車人員	$N = Pa \times W$	296.4	31.4
立寄り人数		327.8	
トイレ利用率	u	0.76	
トイレ利用人数	$NL = u \times N$	249.2	
		男 m	女 f
性別比	D	0.54	0.46
ピーク率	Pe	2.1	2.8
性別利用人数	$NL \times D \times Pe$	282.5	320.9
便器回転率	C	95	40
		小便器	大便器
		$Vm1 = 0.8NLm/Cm$	$Vm2 = 0.75Vm1$
			便器
			$Vf = NLf/Cf$
便器数	$V = NL/C$	2.38	1.78
切り上げ		3	2
洗面器回転率	S	360	215
洗面器数	$VS = NL/S$	1.65	4.18
切り上げ		2	5

* 平均乗車人員は「道路交通センサス」H22による

出典：「設計要領第6集 建築施設編」 西日本高速道路株式会社

・ 以上より男子小便器3、男子大便器2、女子大便器9

男子洗面器2 女子洗面器5となる。

②多機能トイレ数算定

・ 多機能トイレに関しては、以下のように算定する。

	多機能トイレ数
総大便器数 ≤ 200	総大便器数 × 1/50 以上
総大便器数 > 200	総大便器数 × 1/100 + 2 以上

出典：「設計要領第6集 建築施設編」 西日本高速道路株式会社

$$\text{総便器数} \times 1/50 = 14 \times 1/50 = 0.28 \rightarrow \underline{1} \text{ か所}$$

③トイレ面積

・ 以下のようにトイレ面積を算定する。

- ・ ①で算定した便器数のうち男子大便器1、女子大便器2を大型ブースとする。
- ・ 女子トイレにパウダーコーナー3か所を設ける。
- ・ 男子トイレ、女子トイレにそれぞれ子どもコーナー1を設ける。

	男子トイレ		女子トイレ		その他	
	数	単位面積 (㎡)	数	単位面積 (㎡)	数	単位面積 (㎡)
小便器数	3	3.0				
大便器数	1	5.4	7	5.4		
大型ブース数	1	8.8	2	8.8		
洗面器数	2	3.0	5	3.0		
パウダーコーナー数			3	2.2		
子どもコーナー	1	6.1	1	6.1		
多機能便器数					1	10.8
面積計	35.3		83.1		10.8	

出典：「設計要領第6集 建築施設編」 西日本高速道路株式会社

・男子トイレ+女子トイレ+その他 = $35.3 + 83.1 + 10.8 = \underline{129.2 \text{ m}^2}$

(3) 情報発信施設

- ・同様に駐車ます数から情報発信施設を含む休憩所の面積を算定すると以下のように 170 ㎡となる。この面積には、「休憩所」「インフォメーション」「救護室」「事務室」「湯茶接待室」が含まれている。

駐車ます数 (台)	標準的な面積 (㎡)
300	250
250	210
200	210
150	170
100 台以下	140

休憩所の標準的な面積 (サービスエリア)

出典：「設計要領第6集 建築施設編」 西日本高速道路株式会社

(4) レンタサイクルスペース

- ・レンタサイクル用の駐輪スペースを、以下のように算定する。

駐車台数	1 台当たりの面積
10 台	2.04 ㎡

* 自転車全幅 0.6m × 全長 1.9m、通路 1.5m として算定

$2.04 \times 10 = \underline{20.4 \text{ m}^2}$

(5) シャワーブース

- ・コイン式シャワーブース用スペースを、以下のように算定する。

設置台数	1 台当たりの面積
4 台 (男 3 台、女 1 台)	5.0 ㎡

* シャワーユニット全幅 1m × 全長 2m、通路 3m として算定

$5.0 \times 4 = \underline{20 \text{ m}^2}$

(6) 多世代交流施設

- ・コミュニティスペースおよび子育て支援施設を含めた多世代交流施設について、道の駅等の事例より以下のように設定する。
- ・コミュニティスペースは、100名程度が参加可能な研修や地域サークル活動が行える面積とするほか屋内での催事等にも利用できるスペースとするため200～300㎡と想定、子育て支援施設としては一般的な事例を参考に400～500㎡と想定、併せて以下のように想定する。

施設面積：700㎡

【子育て支援施設参考事例】

施設名	道の駅 駐車台数	施設 延床面積	子育て施設面積
国見あつかしの郷	170台	2,727㎡	約160㎡（図上計測）
パレットピアおおの ぱれっと	266台	1,900㎡	約400㎡（図上計測）
長門おもちゃ美術館	216台	2,410㎡	337㎡
おもちゃハウスこどもと木			200㎡
遊びハウスこどもと森			591㎡
諫早こどもの城あそびスペース			450㎡

【参考】幼稚園園舎の面積基準

学級数	1学級	2学級	3学級以上
面積	180㎡	320㎡	1学級につき100㎡増

出典：「幼稚園設置基準」文部省令第32号別表第1

(7) レストラン・カフェ

①高速道路基準によるレストラン面積の算定

- ・駐車台数によってレストラン面積は以下のように算定される。

項目	記号	小型車	大型車
駐車台数	P	97台*	12台
駐車回転数	r	2.4回/h	2.0回/h
駐車台数	$P_a = P \times r$	232.8台/h	24.0台/h
平均乗車人員	W	1.30人	1.31人
立寄り人数	$N = P_a \times W$	302.6人/h	31.4人/h
レストラン利用率	u	0.3	0.3
レストラン利用人数	$N_L = u \times N$	90.8人/h	9.4人/h
人数計		100.2人/h	
レストラン回転数	C	2.0人/h	
席数	$V = N_L / C$	51席	
1人当たり面積	M	1.6㎡/人	
食堂面積	$L_S = M \times V$	81.6㎡	
厨房面積	$LS_2 = LS \times 0.4$	32.64㎡	
付属施設**面積	$LS_3 = LS \times 1.6$	130.56㎡	
レストラン面積		244.8㎡	

* 身障者車両を含む

** 付属施設は従業員休憩室、事務室、倉庫、トイレ等

出典：「設計要領第6集 建築施設編」西日本高速道路株式会社

- ・レストラン面積：250㎡

②類似事例による算定

			席数	面積 (㎡)
レストラン	道の駅むなかた	おふくろ食堂はまゆう	80	350
	De・愛	小梅ちゃん		370
	センザキッチン	仙崎本丸 (レストラン)		120
	センザキッチン	センザキバル (フードコート)		190
	センザキッチン	千石 (寿司)		60
	ファームサーカス	ベーカリー・食堂・カフェ		250
	ファームサーカス	デイズキッチン (イタリアン)		170
	道の駅おふく	レストラン		180
	ジョイフル川崎店			290
	六本松 421	いっかく食堂	25	60
カフェ	武雄こども図書館	九州パンケーキカフェ		130
	博多駅	ミスタードーナツ		120
	博多駅	上島珈琲		110
	博多駅	シアトルズベストコーヒー		90

・レストラン面積の算定に加え、類似事例を参考に以下のように想定する。

レストラン面積：250 ㎡、カフェ面積：100 ㎡

(8) 物販、軽食コーナー

①高速道路基準による算定

・一般的なハイウェイショップの標準規模より面積を算定すると以下のように 170 ㎡となる。
 この中には「フードコート」「スナックコーナー」「ショッピングコーナー」「自販機コーナー」等の飲食販売施設「道路案内」が含まれる。

駐車台数 (台)	標準的な面積 (㎡)
300	255
250	230
200	200
150	170
100 台以下	160

出典：「設計要領第6集 建築施設編」 西日本高速道路株式会社

②類似事例による算定

- ・類似例を参考に、300 m²と想定する。

施設	面積 (m ²)
De・愛 直売所	290
センザキッチン 直売所	360
道の駅うすい 直売所	440
道の駅おふく 直売所	120

(9) パン工房

- ・道の駅等の施設に併設しているパン工房の事例を参考に、100 m²と想定する。

施設	パン販売	面積 (m ²)
福智町図書館	としょパン	130
センザキッチン	ララ・ベーカリー	50
De・愛	パン工房	100
道の駅うすい	パン工房	90

(10) 商品開発室

- ・一般的な事例を参考に、小規模なスペースとして 50 m²と想定する。

(11) 防災施設

- ・近年増加する災害に対応し、非常時における避難場所としても機能させるため、非常用電源、防災備蓄倉庫、貯水タンクなどの設備を備えた広場を整備する。
- ・今後策定予定の国土強靱化計画に応じて施設整備を行う。
- ・本計画では以下を想定する。
 - ・防災備蓄倉庫 50 m²程度
 - ・非常用電源
 - ・貯水タンク
 - ・マンホールトイレ
 - ・防災対応パーゴラ
 - ・かまどベンチ

(12) 施設規模まとめ

①屋外施設

機能	施設	面積 (㎡)	内容
休憩	駐車場	4,000	・小型車 95 台、大型車 12 台、身障者 2 台、二輪車 4 台
	臨時駐車場	2,000	・小型車 65 台程度
地域 連携	イベント広場	1,000	・パン博等の開催。一部屋根付き。キッチンカー駐車可能
	芝生広場	3,000	・自由に遊べる広々とした空間。イベントも可能
	フラワーガーデン	4,000	・四季折々に花が楽しめる本格的な庭園 ・広域からの集客・知名度向上を目指す ・花の手入れや散策・交流を通じて健康増進に寄与
	プレイグラウンド	2,000	・運動が楽しめる広場。健康遊具等を設置
その 他	外周植栽	5,000	・周辺の田園景観に馴染む緑豊かな環境を形成
	バックヤード	1,000	・店舗等への荷物搬入等のスペース

* 面積は次章の配置計画図で設定したものであり、今後さらに検討が必要。

②屋内施設

機能	施設	面積 (㎡)	内容
休憩	トイレ	120	・道の駅を特徴づけるデザイン
	情報発信施設	170	・De・愛をはじめ町内観光資源を案内
	レンタサイクル	20	・De・愛との間を行き来できる自転車を貸し出し
	シャワーブース	20	・軽く汗を流した後に利用可能
地域 連携	多世代交流施設	700	・広域からの家族連れの利用が見込めるキッズスペース ・健康教室や発表会等に活用できる多目的スペース ・各種体験教室等が開催できる体験コーナー
	レストラン ・カフェ	350	・庭園を見ながらゆったりと楽しめるレストランやカフェ
	物販 軽食コーナー	300	・地元産品を中心としたセレクトショップ ・短時間の立寄り客向けの軽食コーナー ・町民が出店できるチャレンジショップ
	パン工房	100	・パン・スイーツを販売し、パン博の町をアピール
	商品開発室	50	・川崎独自の新たな商品を開発
防災 等	防災施設	50	・受援拠点、緊急避難場所として、防災倉庫、非常用電源等を設置
	付帯施設		・機械室、ゴミ置場等
計		1,880	

6. 配置計画

*本配置計画は、コンセプトをイメージしやすくするために例示するものであり、具体的な配置計画は今後さらに検討を行う。

(1) 全体配置計画

① 駐車場

- ・国道からの出入りが円滑に行えるように、必要駐車台数を国道 322 号沿いに確保する。
- ・敷地南側にも駐車場を設ける。通常時は周辺住民が利用でき、混雑時には臨時駐車場として使えるスペースとする。

② 建物と広場・庭園の配置

- ・駐車場からすぐに建物に入れるようにしつつ、芝生広場やフラワーガーデンに面して屋内外が一体化するような配置とする。こうすることで、建物内から庭園の景観を楽しむことができる。
- ・また、国道からも庭園が見えるようにすることで、立寄ってみたいくなる景観を形成する。
- ・建物には庇を設けて利便性を高めるとともに、一部は大きな庇として、イベントやキッチンカーでの販売ができる場とする。
- ・情報施設は駐車場に近い位置に設け、ここをってから店舗に抜けるような配置とする。
- ・24 時間トイレはやや奥まった場所に設け、トイレに行く人が店舗で気軽に買い物ができるようにする。

③ 屋外施設

1) イベント広場

- ・大きな庇の周辺はイベント広場として、各種イベントや屋台販売等の場とする。

2) 芝生広場

- ・自由に過ごすことのできる芝生の広場を設ける。

3) フラワーガーデン

- ・四季折々の草花を楽しめる本格的な庭園を設け、「ゆったりと憩えるスタイリッシュな道の駅」を象徴する景観とする。
- ・町民が庭づくりに参加できる仕組みを作り、花の世話や住民同士の交流を通じて、健康づくりに寄与できる場とする。

4) プレイグラウンド

- ・遊具や健康器具を設け、多世代が交流しながら健康づくりが行える場とする。

④ 付帯施設

- ・自転車貸し出し施設を設ける。
- ・防災倉庫、非常用電源など、防災用施設を設置する。

⑤ 植栽

- ・敷地境界沿いに高木を植栽することで、緑に包まれた道の駅とする。
- ・隣接するホームセンターの壁面を目立たせないよう、壁面の前面に高密度な植栽を行う。

(2) 配置イメージ

フード＆フラワー・ガーデン

- ・川崎の新鮮な素材を使ったおいしい食べ物を満喫
- ・満開の花を愛でながら憩えるフラワーガーデン
- ・世代間交流で心身ともに健康を維持



○食

・川崎町自慢の食を楽しむ場



ゆったり憩えるレストラン



ここでしか買えないパンやスイーツ



手頃な価格で食を提供するキッチンカー

○花



本格的なフラワーガーデン



川崎町特産のリンゴも植栽

○健康・交流

・多世代が思い思いに過ごし、交流できる場



イベントができる大屋根



自由に過ごせる芝生広場



多目的に使える交流スペース



健康遊具



子どもの遊び場



図書コーナー



おもちゃコーナー







屋内配置イメージ

7. 整備・管理運営手法の検討

(1) 検討の視点

①公益性の確保

- ・道の駅は直売所や飲食店舗等の収益機能を有し、利用料金や売上金を得て収入とすることが可能である。
- ・一方、トイレ、休憩所、情報発信施設、コミュニティ施設等、道路利用者の利便性や町民の福祉向上に寄与することを目的とした、公共性が高く収益性の低い施設も存在する。
- ・公的資金を活用することもあり、収益性のみを目的とせず、公益性に基づく施設としなければならない。

②運営ノウハウの確保

- ・道の駅施設は、さまざまな機能を備えていることから、管理運営には多様なノウハウが求められる。
- ・企画・運営力の高い人材や、運営ノウハウを有するテナントの確保が必要である。また、スタッフを早期に集めるとともに、教育体制を整えることも必要である。

③町内生産者、地域住民等の参画

- ・物販においては1次産品の出荷を求めるだけでなく、町内の生産者の創意工夫による商品開発を行い、新たな雇用を生み出すことが期待される。
- ・生産者の販売の場としてだけでなく、町民自らが運営に関わり施設を育てていくような機会の創出も必要である。

④事業採算性の確保

- ・公益性を確保しつつも過剰に公的資金を投入することのないよう、持続的で安定的な運営を行うことが必要である。

⑤事業の早期実現

- ・町では少子高齢化、人口減少、農家数の減少等が進行しており、地域活性化は喫緊の課題となっている。
- ・地域活性化の拠点と期待される道の駅は、できるだけ早い時期の開業が望まれる。

(2) 道の駅の整備

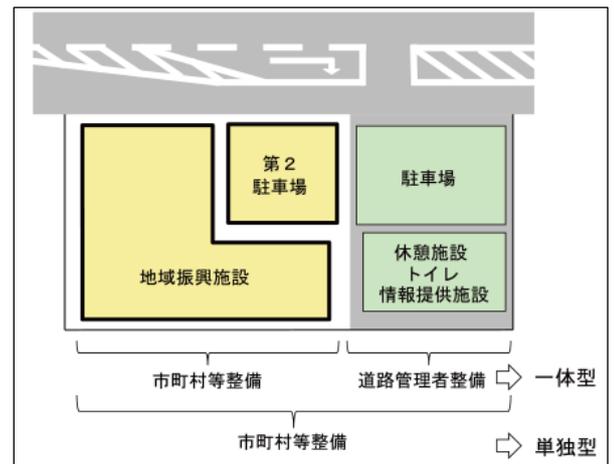
・道の駅の整備は、「一体型」と「単独型」の二つに分類される。

- ①一体型：道路管理者が整備する駐車場・トイレ等と市町村等が整備する施設を一体的に整備
- ②単独型：市町村等が単独で施設を整備

・全国の事例を見ると、総数の上では一体型による整備が多いが、近年では単独型による整備の割合の方が多くなっている。

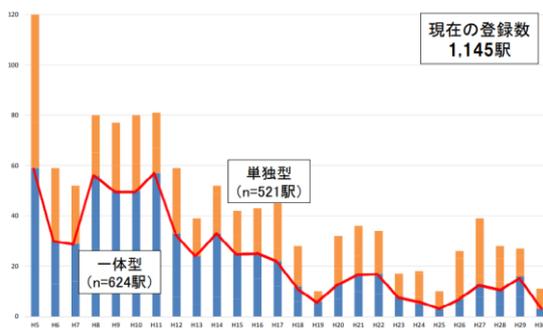
・福岡県内では「うすい」と「歓遊舎ひこさん」の2駅が単独型による整備である。

・本事業では国道322号の道路管理者である福岡県と一体的に整備を行う「一体型」を想定している。



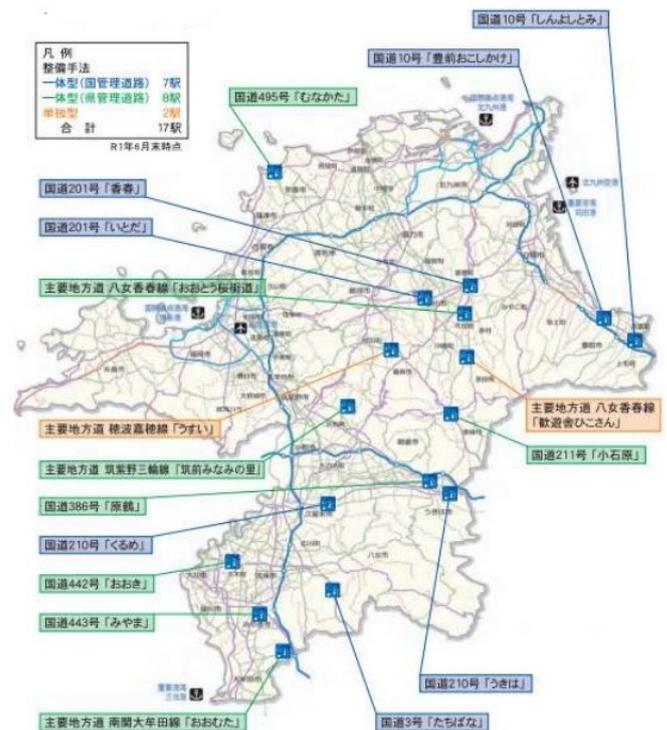
整備主体と整備内容

出典：国土交通省



全国の「道の駅」の登録数の推移

出典：国土交通省配付資料 2019年1月



福岡県の「道の駅」の整備手法

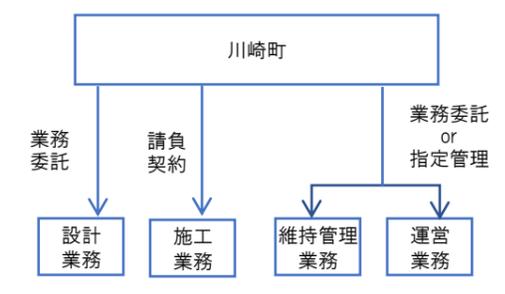
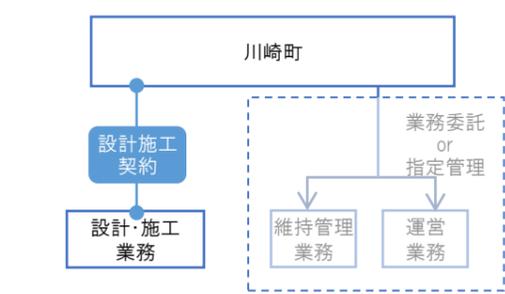
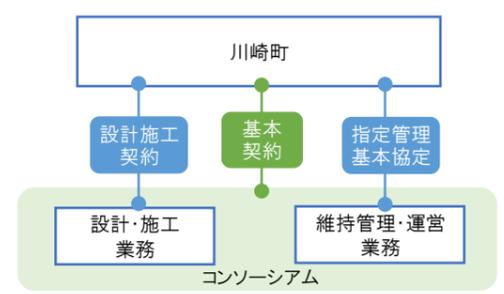
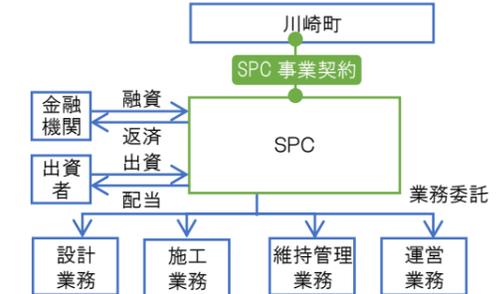
出典：「令和2年度県土整備行政の概要」福岡県県土整備部

(3) 施設整備手法

- ・施設整備については、従来型の設計・施工・運営を分割して発注する方法に加え、多様な手法が用いられるようになっている。
- ・これらは、設計・施工・運営のどの部分を一体的に発注するかという点と、民間資金を活用するかかどうかという点から表のように分類される。
- ・民間資金を活用する PFI 事業については、さらに多様な手法があるが、道の駅の場合、整備主体は地方自治体等に限られるため、BTO 方式（Build Transfer and Operate：民間が施設を整備したのち公共が所有）に限定される。
- ・PFI 事業の場合、民間資金を活用して建設時の支払いを述べ払いにすることで、負担を事業期間に渡って平準化できる一方、利率や調達コストは公的資金より高い。本町の場合、過疎債で費用の大半を賄えるため、民間資金を活用するメリットは低い。
- ・DB（Design Build）、DBO（Design Build Operate）は、参加企業がノウハウを提供し合うことや、細かい仕様に縛られずに工夫できることでコストや工期の短縮が見込めるが、仕様を詳細に決めずに発注するため、町が期待するものとの食い違いが生じやすい。また、発注までの手続きに時間がかかる。
- ・これらの点から、本事業では施設整備に関しては従来方式の発注が望ましい。

事業段階		設計 (Design)	→	施工 (Build)	→	運営・維持管理 (Operate)
分割発注 (従来方式)		分離発注		分離発注		分離発注
民活 導入	DB (Design Build)	一括発注				分離発注
	DBO (Design Build Operate)	一括発注 公的資金のみ利用				
	BTO (Build Transfer Operate)	一括発注 民間資金を活用				

整備手法比較

		従来方式	DB (Design Build) 方式	DBO (Design Build Operate) 方式	BTO (Build Transfer and Operate) 方式
					
一括発注の範囲		分割発注	設計・施工	設計・施工・維持管理・運営	設計・施工・維持管理・運営
資金調達		公的資金	公的資金	公的資金	民間資金
発注条件の規定方法		町〔仕様を詳細に規定〕	町〔基本的な性能のみを規定〕	町〔基本的な性能のみを規定〕	町〔基本的な性能のみを規定〕
指標	契約期間	設計、施工はそれぞれの所用期間、維持管理・運営は単年度～5年（指定管理）程度	設計施工は所用期間、維持管理・運営は単年度～5年（指定管理）程度	10～30年程度	10～30年程度
	民間ノウハウ発揮	×仕様発注、別発注となるため一体性に欠け、個別の対応となる	○設計、施工業務同士の調整が図られ、性能向上、工期短縮となる	○設計施工・運営それぞれが調整することで工期短縮となり、創意工夫が図られる	○維持管理や運営まで見通した設計となり、工期短縮・創意工夫が図られる
	民間の参加しやすさ	○個別契約であり参画しやすい	○設計施工・運営・維持管理の契約が分かれており参画しやすい	○設計施工・運営維持管理の業務の契約が分かれており比較的参画しやすい	×SPC組成の手間や費用が発生し、小規模な企業は参画しにくい
	財政支出	×施設整備年度の支出が大	×施設整備年度の支出が大	×施設整備年度の支出が大	○財政支出の平準化が図られる
	コスト縮減効果	×少ない	△施工ノウハウを設計に反映できるため縮減が図られる	△施工ノウハウを設計に反映できるため縮減が図られる	○全体を見通した設計施工となり縮減が図られる
	発注準備期間	○短い	△要項作成、募集等にやや時間がかかる	×要項作成、募集等に時間がかかる	×要項作成、募集等に時間がかかる
	設計施工期間	×設計終了後に施工となり、それぞれの期間が必要となる	○設計の途中から施工準備に入ることができるため縮減が図られる	○設計の途中から施工準備に入ることができるため縮減が図られる	○設計の途中から施工準備に入ることができるため縮減が図られる
メリット		<ul style="list-style-type: none"> ・町の政策が反映でき、公共性が確保される ・段階ごとに仕様を確認して発注するため求める性能を確保しやすい ・維持管理、運営が別途発注のため、環境変化リスクに対応しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・設計施工におけるノウハウの共有が図られ、創意工夫とともに工期短縮が図られる ・維持管理、運営は別途発注のため環境変化リスクに対応しやすい ・設計施工の責任の所在が明確になる 	<ul style="list-style-type: none"> ・DBにおけるメリットのほか、維持管理を見越した設計が可能となりコスト縮減効果が高い ・契約期間が長期で手続負担が軽減される。 ・運営が長期になり計画が立てやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間ノウハウの活用が図られる ・運営、維持管理まで見通した設計となりコスト縮減や創意工夫が大きく働く ・契約期間が長期で手続負担が軽減される。 ・運営が長期になり計画が立てやすい
デメリット		<ul style="list-style-type: none"> ・一体的なコスト縮減への期待が低い ・採算ベースの視点が薄れる ・運営上の意思決定に時間を要する ・経営ノウハウに限られる 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営・維持管理まで見通した設計とするためには工夫が必要 ・施設の仕様が全て事業者にゆだねられ、期待する性能が得られない場合がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・BTOに比較すると民間事業者の創意工夫の範囲は減少する ・長期契約による財政・サービスの硬直化が懸念される。 ・施設の仕様が全て事業者にゆだねられ、期待する性能が得られない場合がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模な企業は参画しにくい ・起債よりも金利の高い民間資金を活用するため、建設、維持管理コスト縮減効果が相殺される可能性がある ・施設の仕様・運営が全て事業者にゆだねられ、期待する性能が得られない場合がある

【参考】BTOによる整備の道の駅

事業名称	実施方針 公表	事業主体	事業類型*	備考
指宿地域交流施設整備等事業	H15.1	指宿市	混合	
「道の駅ようか」整備事業	H17.1	養父市	サービス購入	
国道2号笠原バイパス 道の駅整備事業	H21.8	笠岡市	サービス購入	
函南「道の駅・川の駅」PFI 事業	H26.8	函南町	混合	
むつざわスマートウェルネス タウン拠点形成事業	H28.8	睦沢町	混合	
南の拠点整備事業	H28.12	垂水市	サービス購入	
前橋市新設道の駅整備運営 事業	H29.1	前橋市	独立採算	計画付き公募
地域づくり拠点化施設整備 事業	H30.12	国土交通省、 美浜町	混合	

【参考】DBOによる整備の道の駅

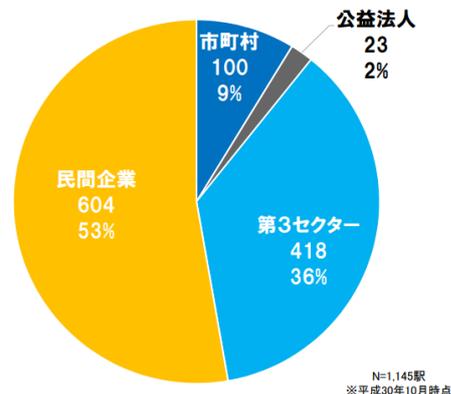
事業名称	実施方針 公表	事業主体	事業類型*	備考
木更津市「道の駅」整備事業	H28.2	木更津市	混合	
音更町道の駅整備事業	H30.12	音更町	混合	R4 年度開業予定
広域道の駅整備事業	R1.10	久慈市、洋野 町、野田村、 普代村	混合	広域道の駅 R5 年度開業予定
道の駅「(仮称)蔵王」整備事業	R2.9	山形市	混合	R5 年度開業予定
館山市「食のまちづくり拠点施 設」整備事業	R2.12	館山市	混合	ZOZO 前沢氏寄付 による資金活用 R5 年度開業予定

* 事業類型

項目	内容
サービス購入	行政が事業者 서비스에 対価を 支払う
独立採算	利用者が 支払う 料金で 事業費を 賄う
混合	サービス購入と独立採算を混合

(4) 施設運営手法

- ・道の駅の運営方式としては、公設公営によるものと公設民営によるものに分けられ、公設公営では町による直営、公設民営では指定管理方式が一般的である。
- ・直営の場合公共性の高い運営が可能な一方、特に収益施設の運営ノウハウが不足するため、本事業では指定管理とすることが望ましい。
- ・指定管理の場合、運営主体としては第3セクターと民間とが考えられる。
- ・第3セクターは行政や地元との連携が図りやすい一方、運営ノウハウが不足する可能性があり、経営能力のある民間出身の責任者を駅長とするなどの策が必要である。
- ・民間の場合、運営ノウハウは得られやすいが、公益性よりも収益性が重視されがちで、収益の得られない事業が切り捨てられる可能性もある。また、進出可能な事業者が限定される恐れがある。
- ・本事業では第3セクターによる運営を念頭に、出資が考えられる団体との協議を重ね、運営主体のあり方を今後具体化していく必要がある。



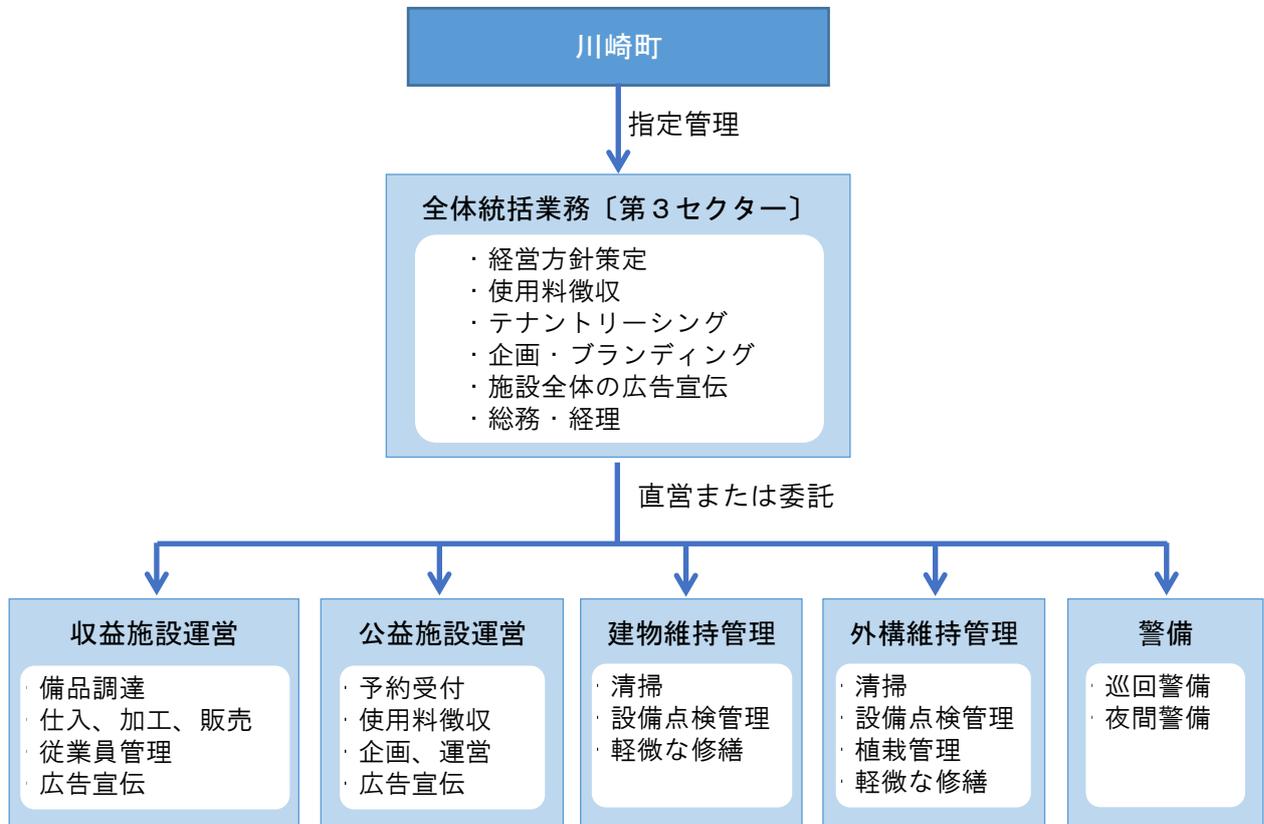
「道の駅」の運営主体

資料：国土交通省配付資料 2019年1月

手法	公設公営（直営）	公設民営（指定管理者制度）	
運営主体	町	第3セクター	民間企業
町政の反映	直接反映できる	連携しやすい	連携しにくい
民間ノウハウ活用	なし	組成による	あり
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・公共目的が直接反映できる ・一定の質のサービスが期待でき、公平性、継続性が担保される ・行政施策との連携が図りやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政との連携が図りやすい ・民間の効率的経営方法を取り入れた事業効率向上が期待できる ・公共部門の毎年度の予算制約が軽減される ・地元団体を中心に組成することで地域に密着した運営が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業努力が生まれ自由な発想が期待できる ・問題が発生した場合の対応が速い ・民間の創意工夫や経営ノウハウを取り込むことができる
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・収益施設の運営ノウハウがないため、総合的な管理運営が困難 ・予算執行の面で、柔軟な対応が出来ない場合がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・半官半民のため意思決定に時間がかかる場合がある ・行政出資による危機感不足や運営能力欠如の例がみられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・利潤追求の側面が強いと公共施設になじまない ・事業者本体の経営リスクが影響する場合がある ・地元との関わりが薄くなる場合がある ・対応できる事業者が限定される可能性がある

(5) 管理運営業務の体制

- ・ 下図の業務体制が考えられる。施設の内容等に応じ、指定管理を行う事業者と詳細を検討していく必要がある。



(6) 管理運営に関する概算収支

①前提条件

- ・収益部門の運営を第3セクターが行うものとして、概算収支を検討した。
- ・事業内容の詳細が未定の段階での概略検討であり、今後の事業化の進展に合わせて、より詳細に検討していく必要がある。
- ・表記はすべて税抜きによる。

②売上高の想定

- ・統計や事例における床面積あたりの売上高に基づいて、下表のように想定を行った。
- ・なお、福岡県内の道の駅のうち、売上高が把握できる10施設の売上高の中央値は4.7億円/年（福岡県観光入込客推計調査2018）であり、下表の想定は概ね妥当な水準と考えられるものの、運営内容によって大きな差が生じる可能性があることに留意する必要がある。

売上高の想定

	面積 (㎡)	㎡あたり売上高 (千円/㎡・年)				想定売上高 (千円/年)
		店舗統計*1	全国道の駅調査*2	事例*3	採用値	
飲食施設	350	467	209		300	105,000
物販施設	450	919	594		700	315,000
多世代交流施設	700			59	50	35,000
計	1,500					455,000

- *1：「小企業の経営指標調査 2020 日本政策金融公庫総合研究所」における、一般飲食店および飲食料点小売業の中央値
- *2：「道の駅を拠点とした地域活性化 2012 財団法人地域活性化センター」における飲食施設および農林水産物直売所の売上高の中央値を、各面積の中央値で割った値
- *3：山口県内類似施設事例

③支出の想定

- ・支出は概ね売上高に比例すると仮定し、統計や事例に基づいて想定した。

売上高に対する支出割合 (%)

		店舗統計*1	事例*2	道の駅計画事例*3	採用値
飲食施設	売上原価	34.6		30~40	35
	人件費	33.9		21~33	30
	諸経費	28.4		15~22	25
物販施設	売上原価	64.2	85.5	80~85	80
	人件費	19.2	9.8	7~11	10
	諸経費	20.4	7.7	5~14	5
多世代交流施設	売上原価	11.2			10
	人件費	29.2			35
	諸経費	44.5			45

- *1：「小企業の経営指標調査（前掲）」における、一般飲食店、飲食料点小売業、娯楽業の中央値
- *2：福岡県内事例。ただし、直売所の手数料率が不明のため、率を仮定したうえで売上高・売上原価を想定
- *3：公表されている全国の道の駅基本計画書等における数値の例

支出内訳（千円/年）

	売上高	売上原価	人件費	諸経費	支出計	営業利益
飲食施設	105,000	36,750	31,500	26,250	94,500	10,500
物販施設	315,000	252,000	31,500	15,750	299,250	15,750
多世代交流施設	35,000	3,500	12,250	15,750	31,500	3,500
計	455,000	292,250	75,250	57,750	425,250	29,750

- ・人件費：給与・賞与・雑給・法定福利費・福利厚生費
- ・諸経費：旅費交通費、通信費、交際費、減価償却費、賃借料、保険料、修繕費、水道光熱費、燃料費、消耗品費、租税公課、運賃、事務用品費、広告宣伝費、支払手数料、諸会費、新聞図書費、寄付金、会議費、雑費等を含む

④町の賃貸料収入

- ・道の駅運営者と自治体との間での賃貸料や指定管理料の実態は多様であり、運営者が自治体に賃貸料を払い、自治体は運営者に指定管理料を支払うケースや、賃貸料を支払わない代わりに指定管理料もないケースなどがある。
- ・これについては今後さらに検討を行うとともに、運営予定者との協議が必要であるが、仮に、1,000円/㎡・月の賃貸料を町が受け取るとすると、年間賃貸料は18,000千円/年となる。
- ・これは、売上高の4%、諸経費支出の31%にあたり、運営者にとって、賃貸料としてこれだけの支出が可能かどうかの検証が必要となる。

⑤非収益施設の支出

- ・24時間トイレ、情報施設、フラワーガーデンは無料と想定し、町が支出するものとして費用を算定する。
- ・町の賃貸料収入とほぼ同水準という結果となったが、今後さらに検討が必要である。

非収益施設の維持管理費

	面積（㎡）	㎡あたり管理費（円/㎡・年）	維持管理費（千円/年）
フラワーガーデン	4,000	1,500	6,000
芝生広場・外周植栽・プレイグラウンド	10,000	1,000	10,000
24時間トイレ	120	10,000	1,200
情報施設	170	20,000	3,400
計			20,600

【参考】・新潟県内の公営イングリッシュガーデンの運営費：1,400円/㎡（2018年）

- ・全国都市公園の平均維持管理費 202円/㎡
うち東京23区内 799円/㎡

（全国中核市等における公園緑地の課題に関する調査研究 2016 一般社団法人 日本公園緑地協会）

- ・集客力を高めるためには、高い維持管理水準が求められることを考慮してフラワーガーデンと芝生地の管理費を設定
- ・24時間トイレと情報施設については、道の駅計画事例を参考に設定

8. 本事業に利用可能な補助制度

* 着色部は、本事業になじみやすいと考えられる制度

	名称	補助率	内容
内閣府	地方創生推進交付金 (まち・ひと・しごと創生交付金)	1/2	小さな拠点・地域運営組織の形成、人材の派遣等に関する事業等多数
	地方創生拠点整備交付金	1/2	地域の観光振興や住民所得の向上等の基盤となる先導的な施設整備等を支援
内閣府・厚生労働省	地域子育て支援拠点事業	補助基準額に対し、国 1/2、市町村 1/2	乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行う事業
総務省	地域経済循環創造事業交付金「ローカル10,000プロジェクト」	最大5千万円、金融機関による融資額以内	民間事業者による、雇用吸収力の大きい地域密着型事業の立ち上げを支援
	公衆無線LAN環境整備支援事業	2/3(財政力指数0.4以下)	防災拠点、公的拠点における公衆無線LAN環境の整備
	過疎地域遊休施設再整備事業	1/3以内	遊休施設の活用
農林水産省	農山漁村振興交付金 (地域活性化対策、農山漁村活性化整備対策)	1/2	農山漁村への定住促進あるいは交流対策への取組(直売施設、地産地消レストラン、加工施設など) 活性化計画、事業実施計画の策定が要件
	6次産業化サポート事業	施策により3/10~2/3 融資等も	農林漁業者が6次産業化による経営改善につながるための相談、試作、加工・販売施設整備等
	農村地域防災減災事業	2分の1、100分の55、定額等	農村地域防災減災総合計画に位置づけられている事業を支援
経済産業省	JAPANブランド育成支援等事業	【事業型】 上限500万 2/3 【支援型】 上限2千万 2/3	事業型:中小企業者が行う、全国展開、海外展開や新たな観光需要の獲得のための新商品や新サービスの開発、新たな販路の開拓、ブランディング等の取組。 支援型:民間支援事業者や地域の支援機関等が行う、複数の中小企業者を対象とした全国展開、海外展開や新たな観光需要の獲得を支援する取組。
	電気自動車・プラグインハイブリッド自動車の充電インフラ整備事業費補助金〔高速道路SA・PA及び道の駅等への充電設備設置事業〕	定額 1/1以内	電気自動車充電設備を設置する者に対して、充電設備の購入費及び設置工事費(充電設備、案内板、付帯設備、その他設置にかかる費用)を補助。
	災害時に備えた地域におけるエネルギー供給	定額 1億円以内	自家発電設備を備えた「住民拠点SS」の整備(自家発電設備の設置工事等)

	拠点の整備事業		
	小規模事業対策推進事業	定額 1/2～2/3	認定を受けた「経営発達支援計画」に基づき実施する（経営分析、事業系飼う策定、需要開拓）事業の経費 商工会等と連携し、地域の産業の活性化、観光開発など、地域の経済活性化に向けた取組を支援
環境省	二酸化炭素排出抑制対策事業等補助金（地域の防災・減災と低炭素化を同時実現する自立・分散型エネルギー設備等導入推進事業）	2/3～3/4	防災・減災に資する再生可能エネルギー設備、未利用エネルギー活用設備及びコージェネレーションシステム並びにそれらの附帯設備（蓄電池、自営線等）等を導入する事業を行うために必要な工事費、機械器具費、設備費、事務費等
	生物多様性保全推進交付金（エコツアー地域活性化支援事業）	1/2	エコツアー推進全体構想やエコツアープログラム作成、モニターツアー等の活動の経費の一部について支援
国土交通省	官民連携基盤整備推進調査費	1/2	国土交通省所管の基盤整備の事業化に向けた検討経費（施設整備の内容に関する調査、施設の整備・運営手法に関する調査）等を支援。
	直轄道路事業（交通安全）		重点「道の駅」に対する、道路区域内の駐車場、休憩施設、トイレ、道路情報提供施設等への支援
	社会資本整備総合交付金（道路、市街地、公園、住宅相談・住情報の提供等）	1/2	地方公共団体が行う社会基盤整備において、官民が連携し、民間の投資や活動と一体的に実施することにより、観光振興等地域の活性化させる事業について、事業化検討経費を支援
	小さな拠点を核とした「ふるさと集落生活圏」形成推進事業	1/2	暮らしの安心を支える複数の生活サービスや地域活動の場を集めた「小さな拠点」の形成に既存施設を活用した施設改修等に所要の補助
	地域公共交通確保維持改善事業	1/2	地域の多様な関係者が協働した地域の公共交通の確保・維持、利便性の向上等の取組を支援（コミュニティバス等の運行、車両購入、バリアフリー化など）
観光庁	広域周遊観光促進のための新たな観光地域支援事業	調査・戦略策定：上限1000万ほか（事業費の1/2）	外国人旅行者の誘客を目的とする次の取組〔調査・戦略策定、滞在コンテンツの充実、広域周遊観光促進のための環境整備、情報発信・プロモーション〕
	訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業	1/3以内	外国人観光案内所、観光拠点情報・交流施設、公衆トイレの洋式便器の整備及び機能向上、観光スポットの段差の解消
	「道の駅」インバウンド対応拠点化整備事業	1/2以内	多言語案内、無料公衆無線LAN環境、多言語対応・先進的決済環境、外国人観光案内所、非常用電源装置及び情報端末への電源供給機器の整備等

9. 概算事業費・事業スケジュール・今後の課題

(1) 概算事業費（税抜）

項目	数量	単位	単価（円）	工事費（百万円）
建築工事				
本体	1,900	m ²	300,000	570
庇・大屋根	400	m ²	150,000	60
計				630
土木工事				
造成工事	20,000	m ²	2,000	40
給排水工事	20,000	m ²	4,000	80
外構仕上工事	20,000	m ²	17,000	340
計				460
合計				1,090
消費税				109
総計				1,199

* 調査・設計監理費、土地取得費を除く

(2) 事業スケジュール

年度	2021 (令和3)	2022 (令和4)	2023 (令和5)	2024 (令和6)
測量・地質調査	[Bar]			
埋蔵文化財		[Bar]		
設計	基本設計	実施設計		
施工			造成工事	建築工事
管理運営		運営方法検討 指定管理者選定	設計内容調整	運営計画策定、体制構築
許認可	事業認定申請	開発許可	建築確認申請	
道の駅登録	事前協議			登録申請

(3) 今後の課題

①特徴の明確化

- ・本基本計画では、道の駅の大きな方向性を示すとともに、可能性のある導入施設を多数例示しているが、これらをすべて実現しようとする、かえって特徴のない施設になりかねない。
- ・収益性を確保していくためにも、周辺の道の駅や類似する民間施設との競合をできるだけ避け、独自性のある道の駅としていくことが望まれる。
- ・道の駅のテーマやターゲット層を絞込み、特徴を明確化していく必要がある。

②収益性向上方策の検討

- ・収益性を確保していくために、どの部分を有料化し、どこで稼いでいくかを十分に検討する必要がある。
- ・町独自の新たな商品を開発し、町の産業振興につなげていく必要がある。

③施設内容の具体化

- ・道の駅の特徴の明確化や、収益性向上策の検討に合わせて、施設内容を具体化していく必要がある。
- ・活用できる補助制度等も考慮して予算規模を設定し、施設規模やグレードを検討する必要がある。
- ・本基本計画で示した駐車場については、県内の道の駅と比べても遜色ない規模であるが、施設内容や利用者数の見込みによっては不足することも考えられるため、さらに検討を行う。

④運営体制や運営方法の検討

- ・第3セクターを設立するかどうか、設立する場合はどのような出資比率とするか、といった運営体制を検討する必要がある。
- ・駅長は、公益性と収益性を両立させるマネジメント力が必要であり、人材発掘の方法を検討する必要がある。
- ・指定管理とする場合、施設利用料と管理委託料の設定方針などを検討する必要がある。

⑤地域住民の運営参加・サポーターの育成

- ・地域住民が企画や運営に積極的に参加できる機会や仕組みを検討する必要がある。